

聖徒の道 1970 7

漁師を召すキリスト



予言者のことば

### 心の糧

十二使徒評議員

#### マーク E. ピーターセン

始 めより、真のキリスト教は大方の人々にとり、信じにくい宗教の一つであった。教い主が地上におられた時、その純粋な教義を教えられたが、多くの者は耳を傾けようとはしなかった。キリストの言葉に反対し、非常に怒ってその生命を奪おうとする者もあり、ついに、彼らはキリストを十字架につけてしまった。

キリストが昇天された後、主の弟子たちは努力して主の御業を続けて行なった。 しかし彼らもまた誤解され、ほとんどの人に信じられず、ひどい迫害を受けた。

聖典に記されているように、彼らはどこに行っても悪く言われた。主な理由は彼らの教えが非常に信じにくいということであった。

もしキリストを受け入れようとするなら、我々はキリストの教えを受け入れなければならない。いつわりは何事をも成し遂げない。キリスト御自身が、二人の主にかねつかえることはできないと言っておられる。そこでもしキリストを認めるなら我々は、キリストがお建てになった教会を認め、そのあるがままの姿を喜んで受け入れねばならない。たとえそれが、我々の心に慣れ親しんだ伝統をくつがえすものであろうとも。

末日聖徒の告げるよきおとずれは、このことである。たとえ信じがたくとも、たしかに神は生きてましまし、我々の天父である。またイエス・キリストは神の御子であり、キリスト教徒の救い主、ユダヤ人のメシヤ、全人類のあがない主である。

我々の時代に新しい予言者がたてられ、ふたたび使徒たちが地上を旅している。 ふたたび古代の叫び声が聞こえる。「悔い改めよ、天国は近づいた」(マタイ4: 17) 今や福音は、純粋なままに回復されたのである。

### もくじー

初めにあたり大管長 ジョセフ フィールディング スミス… 173
アジアにおける教会の将来エズラ タフト ベンソン… 174
アジアの伝道部長報告 176
なぜ我々は神殿を建てるのか故 デビド $O$ . マッケイ大管長… $180$
天の王国の来らんためロイ W. ドクシー… 182
飽くことなき欲求リチャード L. エバンズ… 183
個人の改宗サミュエル L. ホームズ… 184
アジアにおける末日聖徒軍人の影響W. ブレント ハーディー… 187
管理監督のページ
目 標ジョン H. バンデンバーグ… 189
礼拝の原則デビド ローレンス マッケイ… 191
家庭生活を織りなすにはトンガ女王 ハラエバル・マタアホ… 193
人の救い······マリオン G. ロムニー··· 195
ローカル・ニュース
悪に加担するならばリチャード L. エバンズ…裏表紙
and the first and are the time and are the time are the time.
子 供 の ペ ー ジ
ピーターのうたルシル C. リーディング22
ピーターのうた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
りュアン G. ワイルキンケン とも子ちゃんのはじめてのお祈りマーガレット I. キート25
- こも」りゃんいはしめにいねがり · ルレッド 1. エード20

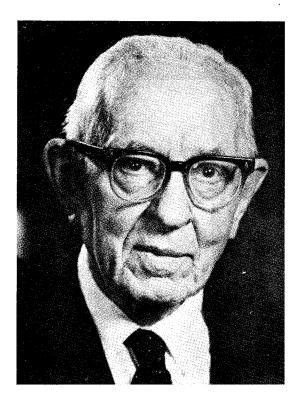
### 今月の表紙

そして, イスラエルの多くの子らを, 主なる彼らの神に立ち帰らせるであろう。

彼はエリヤの霊と力とをもって、 みまえに先立って行き、父の心を子 に向けさせ、逆らう者に義人の思い を持たせて、整えられた民を主に備 えるであろう。(ルカ1:16~17) キリストが漁師を召された様子 は、ハリー・アンダーソンの美しい

キリストが漁師を召された様子は、ハリー・アンダーソンの美しい 油絵「漁師を召すキリスト」によく 描かれている。





# 初めにあたり

大管長

ジョセフ フィールディング スミス

**毎** 月, この紙面を用いて, あなたがたに回復された福音 に関する事柄を話せることを感謝する次第である。

全教会員が持つべき証についての話から始めよう。毎日, あなたがたの証を養い育てなさい。真理を見出す所を知らな くてよいなどという理由はこの世に存在していない。

だれでも、ジョセフ・スミスが主に求めて真理を得たように、自らへりくだって、謙遜と信仰の精神を主に求めさえすれば、それを得るであろう。それは確かなことである。

もし人々は主のみたまのささやきに耳を傾け、主が望まれる通りに福音の知識と理解を求めさえすれば、人々は必ずそれを得る。かたくなな心とこの世につける心とがなければ、必ずそれを得るのである。

「門をたたけ、そうすれば、あけてもらえる で あ ろ う。」 (マタ + 7 : 7)

人が教会の役員、教師としてふさわしい者になるために、まず持たねばならないものは、福音の原則についての知識と贖い主の使命および予言者ジョセフ・スミスの使命に対する証である。

主が予言者ジョセフ・スミスを立て、天を開いて啓示と戒 めを与え、この輝かしい神権時代の頭におきたもうたことに 私は何の疑いも抱いていない。ジョセフ・スミスが若くして 主に祈り求めた時、天父なる神と御子イエス・キリストが実際に彼の前に現われたもうた。私はこのことが真実であることを知って、心から満足している。その後、ジョセフはモロナイの訪れをうけ、バプテスマのヨハネの手によりアロン神権を、そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネよりメルケゼデク神権を授けられ、神の命令によって1830年4月6日、末日聖徒イエス・キリスト教会を組織したのである。

全能者の力がこの民を導き、我々が主の戒めを守るという 誓約のもとに、光と真理の中を歩んでいることを私は知って いる。これこそ私の動かぬ確信である。すなわち、これらの 事柄、モルモン経および末日の御業の行く末は真実である。 啓示によれば、それは成就されねばならないし、成就される であろう。教会のすべての会員はこれを心から証し宣言する ことができる。

また地の面にあって、それを知りたいと望むすべての人は 自ら知る特権を持っている。なぜなら、自らへりくだり、謙 遜と信仰の思いと悔いる精神とをもって主の御前に行く者は 自分が生きているように、確かにその知識を受けるからであ る。



の世に住める人々よ、こはまたわが誠命の書のはしがきにして、その書は汝らに公にせんためわが彼らに与えしところなり」という啓示の中で、主は次のように述べておられる。「聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。」(教義と聖約1:6,1)

この「汝ら民よ,遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々に ある者よ,共に聴け」という意義ある言葉は、アジアの国々 にあてはまる。

過去二年間で私は四回とれらのアジアの島々を訪れ、また それ以前アメリカ合衆国政府閣僚時代には二度訪れた。その 時、私は幾度となく、この予言の言葉を心に浮かべた。

タイ、マレーシア、ヴェトナム、シンガポール、インドネシア、インド等の国々を訪れる度に、「遙かなる所の民」という言葉を思ったのだった。そして、旅行社の説明によるとこれらの地からソルトレーク市までは、東回りでも西回りでも「距離はだいたい同じ」だそうである。私は前日に出来上った「ジョセフ・スミスの証」をタイ国王に差し上げる時にもこれを思った。それはタイ語による教会の最初の出版物だ

った。

「海の島々にある者よ、共に聴け」。過去二年間私はどれほどこの言葉を心に思い浮かべたことであろうか。800人以上の若人が参加したユース・コンファレンスで、私たちは125名の証を聞き、証会は4時間半に及び、なお85名が会場の都合で証できない状態だった。

昨年の四月、シンガポールの地を奉献する際、「海の島々」 という言葉を思い浮べた。シンガポールには300人程の教会 員がおり、現在教会堂の建築が進行している。

また、台湾を訪問した時、2,000人以上の出席者があってフィリピン(7,000の島々に約4,000万の人々が住んでいる)のマニラで開かれた地方部大会に出席した時、「海の島々」という主の御言葉を思った。さらに、1万4千の島々を擁するインドネシアの奉献に向かった際、当地の指導者たちから心からの歓迎を受けた時、再び「海の島々」という言葉が心にどっと浮かんで来た。

台湾の指導者たちを訪れ、香港、韓国等において増加を続ける教会員たちを訪れる時、これらの親しく、謙遜で、勇気ある人々は主の召しに従い、「共に聴い」ているのを見ることができる。

現在ほど、教会はアジアの国々に手を伸ばすために力を入れ、手段を用いたことは過去を通じてなかった。主の時刻表によれば、今や扉が開かれ、アジアにみわざが行なわれる時であることは明らかである。訪問のたびに多くの実りを得、霊感を得ることができる。みわざは進展しており、島々には大きな発展が見られる。各国におけるすばらしい進歩に霊感を感じずにはいられない。ここは世界の三分の一の人口を持つ地である。もちろん、アジアの総人口から考えれば、私たちはまだ出発したばかりである。

日本においては、四つの伝道部が組織されて、それぞれ幾つかの地方部を持っている。東京・横浜近辺には 1,400 万近くの人々が住んでおり、そこに、私たちはすばらしい組織と指導者を持っている。 3月15日にはステーキ部が新たに組織された。

現在日本には1万2千人以上の教会員がおり、韓国は4千人、フィリピンは約6千人、香港は約4千人、台湾は約4千人である。タイ、シンガポール、インドネシアにおいても胎動が始まっている。沖縄にも強い教会員たちが集会を持っており、ヴェトナム人の間にも土台が置かれた。韓国駐留の教会員軍人がヴェトナムに教会の基礎を築いている。平和がもたらされた時に、その実りとして真理を宣べ伝える道が、人々の間に開かれているのを見ることができるであろう。

これらの国々でモルモンの軍人は、教会のために友人を作り、改宗者を導いて伝道の基礎を固めている。私は最近タイを訪れた際、集会所を見た。またヴェトナムには軍人の地方部が三つあり、それぞれよく運営されている。

1億3千万の人口を擁するインドネシアは1969年10月26日

福音を宣べ伝える地として奉献され、本部をシンガポールに 置く新伝道部も併せて開設された。

私たちは名だけでなく実質のある集会を築きつつある。また、アジアにおける驚異的発展の礎石は置かれている。1969年のバプテスマ数は前年の倍以上であり、増加率はなお上昇している。

最も必要としているものの一つに建物がある。フィリピン 伝道部では、わずか一つの建物しか持たない。しかし各地で 敷地が購入され、礼拝堂建築計画が進められている。

私たちが生きている間に、これらの良き人々の間で、ステーキ部、礼拝堂、権能と力を備えた指導者そして恐らく神殿をも見ることができるであろう。

見通しは非常に明るい。主は新しい改宗者,宣教師,伝道部長を祝福しておられる。著名な人々が友情と協力の手を伸ばしている。たとえば,韓国の会員数50人という小さな支部には大学教授が5人もいる。

願わくは、神がアジアの国々に住む数億の人々を豊かに祝福したもうて、「遙かなる所、海の島々にある」選ばれた民が神の謙遜な僕たち、教会員、宣教師すべてより救いのおとずれを「共に聴く」ように。

主はジョセフ・スミスを通して次のように言われている。 「而して、この末の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん。この末の世の弟子たちは進み行けど、一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ彼らに命じたればなり。」(教義と聖約1:4-5)

私はアジアおよび全世界における私たちの働きに対して恵 みたもう主に深く感謝して、これを心から証し申しあげる。



聖餐会で話をする若い日本人の長老



神権の職に按手聖任される最近改宗した兄弟

### アジアの伝道部長報告

## 日 本 伝 道 部

ウォルター R. ビルス伝道部長

我 々の伝道部は、1,200万の人口を持つ世界最大の都市 東京を含んだ本州の北半分と、現在はほとんど絶えつ つある原住民、時たま青い目も見られる白色の肌をしたアイ ヌの居住地北海道にわたっている。

伝道部には6,697名の会員,17の支部,17の伝道地がある。新しい礼拝堂が東京に4つ,横浜,高崎,札幌,旭川にそれぞれ1つずつ,計8つ建てられ,他に6つの建物が礼拝堂に修築されている。

古い借家の建物内では、教会員は畳や座布団にすわる。また北の地方は冬季に非常に寒くなるため、小さな石油ストーブを幾つもたいて暖をとる。4支部と3伝道地のある北海道では、礼拝堂のひさしの高さまで雪が積もることもしばしばである。

我々の伝道部全体を通じて、教会員はふつう30分から3時間ほどの道のりを地下鉄、バス、電車などで教会に通う。そのため集会はほとんど一日中を使ってまとめて次々に行なわれる。バプテスマ会は日曜日の早朝に海へでかけたり、手製の

フォントで行なわれることが多い。教会員はセールスマン、筋肉労働者、医師、歯科医、実業家などあらゆる職業の人々にわたっている。現在は159人の長老と22人の姉妹で計181名の宣教師がおり、そのうちの20人は日本人である。1968年には281名のバプテスマがあり、1969年には710名のバプテスマが行なわれた。1970年はバプテスマの目標が2,500名に定められている。

伝道部の東半分では、主にモルモン経配布プログラムを通して、教会がよく知られてきている。1969年の前半で6,326冊のモルモン経が売れ、後半には48,147冊が売れた。1970年には20万冊から30万冊が売れるようにと希望している。また、6つの案内所を作って、映画「幸福を探し求めて」の日本語版を上映したいと思っている。さらに1970年10月には二機の飛行機をチャーターしてソルトレークでの総大会に出席する計画もある。我々は特に万博 '70 年の準備をなしつつ、大いなる年を待ち望むのである。

## 日本沖繩伝道部

エドワード Y. 岡崎伝道部長

我 々の伝道部は日本の半分すなわち本州の半分と九州, 四国,沖縄を含んでいる。この地域の人口は5千万である。(日本の総人口は1億)

興味深いことに、日本の習慣や宗教には、真理の福音が昔日本にも伝わったことを証明するような事柄が見られる。その幾つかをあげると、(1)神道には死者のためにバプテスマをするという儀式がある。(2)死んだ人はこの世における名前を失い、僧侶から天上における名前をもらう。(3)人々は先祖のために「働き」をなさねばならない。(4)日本人は家長制を信じている。(5)犠牲により天から祝福がもたらされるという誓

約を信じている。(6) 日本創造の物語は、 天地創造の話と類似している。

我々の伝道部には 5,281 名の教会員,32の支部,6つの伝 道地,2つの軍人地方部がある。4つの礼拝堂が建てられて いるほかは,みな借家である。現在の宣教師数は191名,そ の他にパートタイム宣教師が18名いる。1969年は,613名が 教会に改宗した。

今日日本において教会はよく受けいれられており、特にアジア初の万国博が当伝道部内の大阪で開催される1970年は前途が期待される。

教会の展示館の位置はすばらしいものである。ある万博役 員が「あなた方はどうしてこんなに良い場所を手に入れまし たか。何か有力なコネでもあったのでしょう」と話していた が、我々はそのような土地を主の助けによって手に入れたの である。

展示館は日本館の向かい側,人々が休憩し涼をとる最大の人造湖の近くで,無料で立派なショーが見られる最大の公共広場から1丁しか離れていない。6ヶ月間に500万から800万人の入場が予想されている。

大管長会の承認により「幸福を探し求めて」が日本人のキャストで録画され、同時に我々は宣教師のレッスン・プランをさらに日本人にあうよう再編成している。この6ヶ月間の

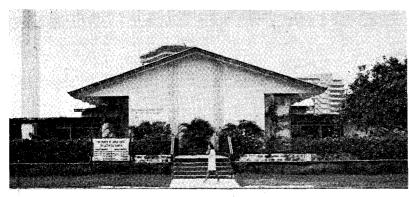
ためにたてられた宣教師の新しい語学トレーニング計画の成果もあがっており、心より感謝する次第である。

この年に聖徒たちはチャーター機でハワイ神殿に行き,エンダウメントや結び固め,および祝福師の祝福を受ける。

バプテスマ数は近い将来に月平均19人から200人にあがる 見込みである。私は、サーフボードで大波にのる時のスリル に満ちた気持を知っているが、万博が開かれると、教会の展 示館が我々を非常なスピードへとかりたてる大波となるであ ろう。その大波を必ずとらえることができるように、我々は 今懸命にこいでいるのである。我々はこの航海を続け、塩の しぶきを口いっぱいに受けられるようにと、心より願ってい る。

(注 この記事は伝道部が4つになる前に書かれたものです。)

フィリピンに完成した教会堂



フィリピンの若い人々に展示の説明をする長老



# フィリピン伝道部

ポール S. ローズ伝道部長

フィリピン伝道部は7,000 の島から成るフィリピン共和国にある。支部や宣教師の所在地は、北は最大のルーソン島にあるラオアグから、南はミンダナオのゼネラル・サントス・シティーまでの間に点在している。

宣教師はおよそ37の主要な方言とその他60余りの方言を学 ぶが、共通言語をあげるとすれば英語であろう。そのため、 宣教師は英語で福音を教える。

20の支部と19のグループがあり、教会員数は 5, 199 名である。(1969年には 1, 351 名のバプテスマが行なわれた)35の都市で 179 名の宣教師が働いている。現在フィリピンには礼拝堂がひとつ建っており、間もなくふたつの礼拝堂が着工に

なる。

フィリピン人はおそらく地上で一番親切な民であろう。いつもほほえみ,人助けをし,近よると手を振る。第二次世界大戦以来フィリピン人はアメリカ人,特に宣教師たちにジョーというニックネームをつけた。子供たちは宣教師を見ると喜び,時には50人もの子供が宣教師のまわりについて歩いて暑い日中のチラシくばりを楽しいものにしてくれる。

現在は1年前よりもモルモン経をくばりやすくなり、福音 に関心ある人をさがしやすくなったと宣教師たちは言う。 1970年は望み多い年である。

## 香港一台湾伝道部

W. ブレント ハーディー伝道部長

当 伝道部の管轄地域は台湾と香港であり、台湾はおよそ 1,400万、香港は450万の人口である。31支部、3地方部に8,673名の教会員がいる。宣教師数は148名で、着任の宣教師は香港で話される広東語と台湾で話される北京語のどちらかを学ぶ。両方共中国語の方言であるが、それらはまったく異っていて、香港と台湾の宣教師を他方に転勤させることはできないからである。

現在は古い教会堂が3つと、フロアを礼拝堂として用いる 共同家屋が4つ(そのため、エレベーターを使って教会へ行 くことになる)。個人の家が1つ、小さい一部屋だけの礼拝 堂が1つ、その他に15の支部建物を借りている。伝道部の両 地域では福音が人々によく受け入れられるようになりつつあ る。我々は1970年のバプテスマ数は1969年の2倍と期待する。 この地での教会の発展ぶりはたのもしいものである。 台湾の人口1,400万のうち4,500人が教会員である。台湾の年間国民所得は1964年以降従来の2倍になり、その経済成長はめざましい。失業者はほとんど見られなくなり、地方には近代的な工場が点在するようになった。この台湾では78名の宣教師が働いている。台湾の教会組織は珍しい。というのは、伝道部であるにもかかわらずステーキ部のようだからである。台湾では、いつの日か中国における初のステーキ部となる時に備えて指導者養成のために、地方部長会と地方部評議員が教会の諸事を運営している。

中国の南東岸にある香港は共産広東省に隣接し、398.5平方マイルある。教会はこの地で急速に発展しつつある。

来年の目標としては第一に地方の教会指導者の強化である。我々は、聖徒たちがアジアの他の地域のための力の源となるよう、用意し、成長していると考えるものである。



チラシを求道者に配る宣教師



カオ・スイン駅で新しい同僚を待っているファン姉妹

## 東南アジア伝道部

G. カルロス スミス Jr. 伝道部長

我 々の伝道部は1969年11月1日から本部をシンガポール に置いた。南部極東伝道部は香港、台湾伝道部と東南 アジア伝道部に別れたからである。この伝道部にはインドシナ半島すなわちベトナム、タイ、ラオス、カンボジア、およびシンガポール共和国、インドネシア、マレーシア、ビルマ、セイロン、パキスタンが含まれる。これらの国々にはおよそ 9億7,500万の人々が住んでいるが、現在伝道活動は南ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシアで進展しつつある。(1970年1月5日には6名の長老がジャカルタで 伝道 を始め、数名のインドネシア人と20名の白人が教会員となった。)

シンガポールでは今から2年前に6名の長老で伝道が開始 されたが、現在は長老が46名となり、支部の会員数は183に なった。

タイのバンコックには英語を話す人々の支部に 225 名の教 会員がおり、タイ人のグループには35名の教会員がいる。

同じくタイのコラトには30名のタイ人教会員が集い、タイ

全土では4つの都市で30人の宣教師が改宗の業に励んでいる。

ベトナムには軍人管理による地方部が3つあり、軍人の間には支部というよりグループが作られている。しかしサイゴンには90名の教会員が所属する支部が1つある。そのほとんどはベトナム人で、アメリカ合衆国の職業軍人も数名含まれている。

伝道はシンガポールとベトナムでは主として英語で行なわれ、タイではタイの国語で、インドネシアではほとんどイン ドネシア語で行なわれている。

教会の建物はまだないが、バンコックに礼拝堂用敷地が購入できたので、一年以内に建つことと思う。

アジアの人々はすばらしい人たちで、献身的である。それは我々の伝道部の各国に言えることである。主は我々にすばらしい同胞を祝福したもうた。

## 韓国伝道部

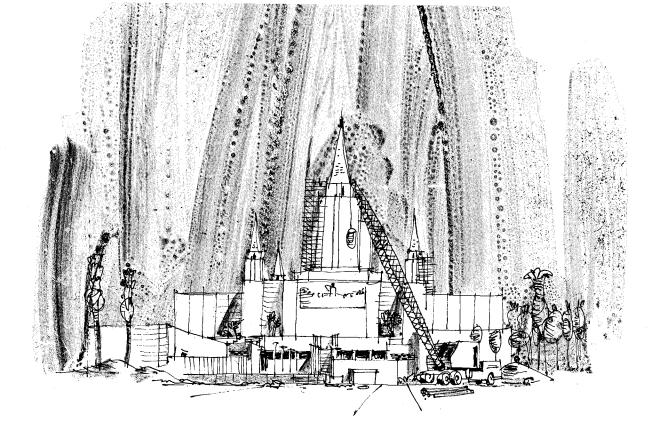
ロバート H. スローバー伝道部長

現 在我々の伝道部には人口 3,100 万の大韓民国が含まれる。教会員は末日聖徒の軍人やアメリカ人を除いておよそ 4,000 人である。 4 地方部,16支部,およそ100 名の宣教師がいる。礼拝堂はソウルに 2 つ,プサンに1つ建てられ改宗者や一般の人々を導く道しるべとなっている。昨年の総バプテスマ数は 450 であった。

韓国における教会のイメージは、伝道開始以来12年という 短い歳月にもかかわらず、非常に高いものである。伝道部が 設けられたのはわずか7年前であるが、教会の名はよく報道 され、大都市では教会紹介の展示も行なわれ、タバナクル合 唱団の歌はソウル放送局をステーションに毎週放送されるな どして, 韓国全体に広まっている。

韓国はおそらく世界中で最もアメリカに好意的な国の一つであろう。人々はアメリカを非常に愛する。そのためアメリカ人の持つ宗教に関心が持たれるのであろう。韓国はアジア諸国のうちでキリスト教徒の占めるパーセンテージが最高である。しかし同時に国民は深い愛国心をいだいている。また国内経済は大幅に成長しつつある。

教会のチャレンジは、神権者を強固にすることである。すでに著名な教会員が大勢生まれており、韓国における教会の 将来はすばらしいものと確信される。ステーキ部の設立と神 殿の建築を心から待ち望むものである。



# なぜ我々は

# 神殿を建てるのか

故 デビド O. マッケイ大管長

世 界中どこへ行っても、報道関係者から「なぜあなた方は神殿を建てるのですか」と尋ねられる。

また「あなた方の教会の神殿と、他の建物とはどう違うのですか」と聞かれる。

彼らは初めの質問の答えに非常に興味をいだいているが、 教会員である我々は、神殿が聖なる儀式――秘密の儀式では なく神聖な儀式――を執行するために建てられることを知っ ている。

その儀式のひとつが、夫と妻の結婚の結び固めと、その間に 生まれる子供たちの結び固めである。子供たちはそれにより 誓約のもとに生まれる権利を得る。そのことを聞くと、人の 魂の最も神聖な属性である愛が霊それ自体と同様に永遠であ るという真理を理解する聡明な求道者、記者たちは、ほとんど 全員、深い興味を示すのである。人が死んだのちにも愛とい う徳性は残る。人の不滅なことと死後にも人格が存続することを信じる者は,みな愛も存続することを認めるのである。

当然、次のような質問が出てくる。「来世で私たちはだれを愛するのだろうか」。夫と共に旅行中のあるご婦人は私がそう質問すると、「すべての人を愛するでしょう」と答えられた。それを聞いた私はその時、「そうです。そして私たちはこの世においてもすべての人を愛さなくてはなりません。隣り人を自分自身のように愛すること、それが救い主の命じられたことです」と話した。(マタイ19:19参照)

我々は地上の物事が天上の物事のひな型であると教えられている。私は、前世についての考えが死ぬべき世で得た経験とひとつになる霊界において、愛する人々を認め、地上におけると同じように彼らを愛することを想像する。

私は他の人々を愛する以上に、私の妻と子供たちを愛し、

知らない人々を愛する以上に親しい人々を愛する。私はすべての人類を思いやり、助けたいと願っているが、共に病む子を看病し、愛する人々をみとってきた私の妻を最も深く愛する。そのような経験によりふたりの心は結ばれている。死もこのように結ばれたふたりの心をわかつことができないのを知ることは何とすばらしいことであろう。

一般の結婚はこの世限りのものである。ふたりは死によってわかたれる。しかし、神と主なる救い主イエス・キリストを代表する正しい権能を受けた人により、儀式が行なわれる主の家においては、夫と妻および両親と子供たちは今も永世にも結び固められる。これが、我々が神殿を建てるひとつの目的である。

ほかに重要な理由があるが、それは容易に理解しがたいものである。それが変っていると言う質問者もいるが、彼らが次のように問われて神の公正さをうかがい知る時には、理由を充分理解できるのである。「あなたは、公正な神が、神の王国に入るために私にある原則と儀式を受けることを要求されながら、あなたにはそれらを受けなくても神の王国へ入ってよいと言われると思いますか」。我々が世に問う必要のあるのは、この質問である。主なるイエス・キリストを敷いの主として受けいれ、従順の要求される原則があるという主の教えを受けいれる人は、すべての人が根本的な原則に従わねばならないか、あるいはすべての人が原則に従う必要がないかのどちらかであることを認めねばならない。それは明白である。

聖典を読むと、救い主は多くの箇所で永遠の計画について述べておられる。たとえば参議会の会員であるニコデモ(救い主の話されるのを聞き、救い主について書かれたものを読み、おそらくは彼に従った)は、サドカイ人やペリシテ人にはないイエスの持っているものが何であるかを知りたいと思い、イエスの所を訪れた。彼は次のように言って、自分の証を示した。「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできはしません」(ハヨネ3:2)。そうして会話が続き私が先にあげたような質問が出たのであろう。ニコデモが「私は何をしたらよいのでしょう」と、尋ねたことは疑いない。その答えとして、聖典の中で最も有名なひとつの言葉が与えられた。「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」(ヨハネ3:3)

人がキリストの持ちたもう霊性を知るためには、必ず霊的に生まれなくてはならない。ニコデモはそのことを理解できなかった。彼はキリストの答えを肉体の誕生と解釈し、おとながもう一度生まれることは不可能であると思った。そのあとで、キリストはまたも重要な言葉を述べられたのである。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」(ヨハネ3:5)

では、イエス・キリストの御名を聞かなかったあなたの遠 い先祖はどうであろうか。御名を聞かずに死んだ無数の人々 はどうなのであろうか。彼らも我々と同じ天父の子供たちで ある。彼らにイエス・キリストの御名を聞く機会がなかった からといって、永遠に神の国にはいれないというのは、愛の 神のなさることであろうか。「われらは、……すべての人類 は、福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得ると 信ず」(信仰箇条第三条)。また我々は、この地上で福音を聞 かずに死んだ人々は次の世で福音を聞くと信じている。その ことは新約聖書に記されている。キリストの体が墓にある間 その霊はどこへ行ったのであろうか。使徒ペテロは、キリス トの霊が、かつて箱舟の造られたノアの時代に不従順であっ た霊たちのいる獄へ宣べ伝えに行かれたと言っている。(Ⅱ ペテロ2:19参照) 何千年も昔に死んだ人々がいまだに存在 しており、福音が彼らにも知らされたのである。福音はその ように天父の子供たちすべてに知らされる。それが神殿のも う一つの目的である。我々が先祖の名前を探し集め、代理の バプテスマを行なうことにより、彼らは地上の我々と同じよ うに神の国の一員となる機会を得るのである。

人々は、彼らがキリスト教会のまことの教会員であり、隣 人に対して誠実で、キリストの福音の理想と調和して生活し ていることを証明する「推薦状」を受けて、神殿にはいる。

神は我々がすべてのものを包括する回復されたイエス・キリストの福音を理解するよう助けて下さる。福音には人生の生き方が教えられ、神殿では、人を最も自己本位で憎悪やねたみや矛盾の多い動物の水準から、最も高い霊的な水準、神の国にまで導くエンダウメントが行なわれる。

教会員とその子供たち、また彼らの子供たちがすべて、主の家で示される偉大な真理を知ることができるよう、そして全人類に適用される永遠のイエス・キリストの福音の原則を実践し、地に平和、人には善をもたらす霊性を発展せしめることができるよう、心より祈りたてまつる。(ルカ2:14参照)

# 天の王国の来ら

ロイ W. ドクシー

これを以て、願わくは天の王国の来らんため、まず神の王国を出で 行かせたまえ。 ──教義と聖約 65:6──

1831年10月,予言者ジョセフ・スミスは神の聖徒がこの世ではこの世の敷いを得,来たるべき世では霊の敷いを得るためのいましめを啓示された。その啓示の中で強調されているのは,「汝ら主の道を備え,……花むこのために用意せよ」(教義と聖約65:3)ということである。

キリストの再降臨のための備えは、どのようにすればできるのであろうか。昔ダニエルは、世の王国の夢を見、末の日に神の王国が「人手によらず」打ち建てられるのを見たが、主は1831年に神の王国が地上に存在すると言われた。(65:2)これこそ末日聖徒イエス・キリスト教会、すなわち人を救うに必要なすべての力をもった「全地の面に於ける唯一の真にして生命ある」教会である。(1:30)

啓示によれば、人は「聞き」、「祈り」、「知らしめ」、「備え」をなさねばならない。(65:1,4,5)

用心し、祈り、救いの働きに参加し、天の王国が神の王国 に合併するイエス・キリストの再降臨という輝かしい日のた めに準備すること、ここに鍵がある。

すなわち、敷われ、神に仕えることができるように、また 王国をきたらすために、まことの教会と一致していることは 人の義務である。(23:7;65:4)

「神の王国」と「天の王国」はしばしば同意語として用いられるが、主はこのふたつをはっきり違った意味で使っておられる。神の王国は「イエス・キリストの教会として地上に前以って建てられていた天の王国の一部」であり、天の王国は、やがて地上の教会に合併するはずの今は幕のかなたにある王国、すなわち「すべての国家、人種の区別をなくした文字通りの王国」。である。

タルメージ長老の言ったように、次のことを忘れてはならない。

すでに地上に建てられている神の王国は、国々の支配を望んではいない。現存の政体を転覆しようともしない。天の王国がもたらされ、かの王が長として地上に君臨される時までは人々にまことの統治による正しい原則を教えてそのように生活するよう努める以外に、地上の政府に属する物事を支配しようとはしない。しかし主が来られる時には、主が統治したもう。なぜなら、それが主の権利だからである。。

#### あなたは備えているだろうか。

救い主の福千年の統治が始められるよう、「願わくは……神の王国を出で行かせたまえ。」大切な問題は、その時が来る前にどのようなことが起こるかを知っている我々が、主のみわざの進展に貢献しているかどうかである。主は、義しく仕えんと欲する民を御自身のためにおこすと言われた。よって各教会員にとり、備えをなす人々の中に加わることが大切である。(100:15-17) それではその恵み多い状態を受ける準備として、我々は何をなすべきであろうか。4つのことが言われている。

- 1 主のいましめを聞き、注意を払う。主の声は天から聞 こえ、主は人に主のために働く権能を与えたもうからで ある。(1:17, 18;65:1)これにはバプテスマの時 や神殿においてかわした誓約を守ることが含まれる。
- 2 本当の敵に打ち勝ち、信仰を強めることのできる力を 謙遜に祈り求める。(1:19-23参照)よく祈り、イエ スに対する証をもった教会員は、栄えある主の再降臨を 心から待ち望む。(45:39参照)
- 3 シオン建設のために働く。聖霊によって、「再び生まれ」た教会員は、人々の光となる生活をするだけではな

# んため

く,シオン建設を手伝う活発な教会員となる 責任 が ある。(6:6-7,38:40;アルマ5:14-31参照)

4 その時がいつ来てもよいように備えをなす。主の再降 臨が近いことのしるしが多く、しかも人々がそのことを 忘れている今日、ジョセフ F. スミス大管長の勧告は 適切である。

……我々は、どのような状況下にあっても、キリスト教会の役員、あるいは個人としての我々に関する御父のみこころを知ることができるよう、聖霊の影響のもと、主に近く、心を謙遜に、従順に生きなくてはならぬ。そのように生活し、神のみたまの小さく静かなささやきを聞いて理解する時にはすべてみたまの教えることを、結果をおそれず実行しようではないか。批評家やあらさがしをする人々や神の王国の敵によく思われようと悪く思われようと、そのことは重要ではない。その働きが主のみこころにかなうかどうか、我々がたずさわっている末日の偉大なわざの精神にあうかどうか、目的が教会の発展と強化のためかどうか。これらにかなうならば、人がどう考えようと、どう言おうと、それを実行しようではないか。

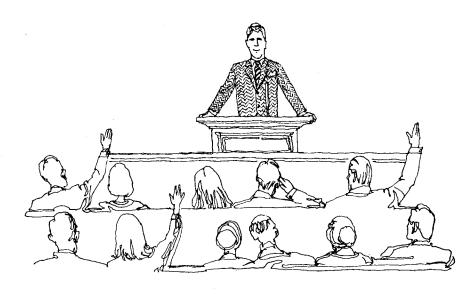
- 1 以後聖句の章節だけをあげる。
- 2 ジェームズ E. タルメージ,信仰箇条の研究,ユニバーシティー出版社,1949年 P.366,367
- 3 ロイ W. ドクシー,末日の予言者と 教義と聖約,第2巻,デゼレト出版社 1964年, P369

# 飽くことなき欲求

リチャード L. エバンズ

「 🛪 らにと望む,飽くことなき欲求」1,このこと について述べたい。常にもっと多くのスリル を,楽しみを,権力を,物をと,いつも満足できずに いて幸福だという人をあなたは知っているだろうか。 ある人は満たされない欲求の充足を求めて, したい放 題のことをする。ある人は要求をかかげ、その要求が 通るとさらに要求する。もっと大きく,他よりも広く と常により多くを望みながら、その過程で問題を複雑 にしていく社会もある。他と比較して競いたがる人は 記録やグラフが常に上昇線をたどっていなくては承知 できない。良い目的であるならばそれもよいが、もし 目的が達成されたのちでさえ満足できないとすれば, 単なる「さらにと望む、飽くことなき欲求」となろう。 かつての王君が持った以上の利器や楽しみ事がある時 でさえ、もっと多くを望んで欲求は止まない。健全な 少しの不満は我々を勉強に向かわせ、行動させ、生産 させて, ほどよい満足と平安と目的とを生じるが, 平 和や真の目的なしで際限なく求めてはならない。ダニ エル・デフォーは言った、「我々にとって、世のよき ものすべては使えるに越したことはない。我々が積み あげて築くすべてのもののうち、使うことができるも のだけを我々は楽しみとするのだ。ただそれだけを」 ある意味で,満足を知らない人間の望みは進歩を可能 とする。しかし渇きをいやすことなしに飲み、理由を 知らずに走ることは、単に「さらにと望む、飽くこと なき欲求」に駆られるにすぎない。我々が努力するに あたって、神は我々に感謝と調和、正しい判断、確固 たる価値感、そして内なる平和と目的に対する正しい 認識力を恵みたもうのである。

1. カーネギー四半期会報 第17巻第3号



聖餐会の話し手が改宗者に手をあげるよう求めることがよくある。両親が教会員ではない人々が手をあげ、幼ない時から教会に来ていた人々は多少意識したふうにまわりをみまわすのである。すると話し手は、「今手をあげなかった人たちは、いつ改宗するのでしょうか」と尋ねる。

ほとんど全員がその言葉に注意をうながされ、幾人かは自分の改宗や他の人々の改 宗という問題についてもう一度考えるのである。

# 個人の改宗

サミュエル L. ホームズ

福 音の回復によりキリスト教会についての誤った考えは一掃されたが、試練の時の安全な避け所となる改宗、および改宗にもとづく信仰については、いまだに理解されにくい。過去において多くのキリスト教徒が、改宗とは神の選民となり絶対的に救われることだと信じていた。彼らにとって改宗は過程ではなく身分であり、正しい生活に導くしるべではなく功績であった。そして、他の宗派で特に強調されてきたことは、改宗とは宗教上の諸儀式への参加に関することであり、諸儀式へ参加する特権の認容、拒否取消し、制限いかんを決定することであった。もはや改宗という言葉はキリスト教徒と称する人々の間にさまざまな意味で用いられているのである。

しかし、人は得た知識に応じて救われ<sup>1</sup>、自分自身の罪に対して罰せられ<sup>2</sup>、知識ある者さえ悔改めを続けねばならない<sup>3</sup>とするならば、改宗は終りのない過程、尽きざる成長で

あるはずである。人に自由意志が備わっているとすれば、改宗は個人の認識と考えぬかれた選びとに大きな関連がある。 福音が愛に基礎を置くとすれば、改宗には、福音の原則を実践し、霊の力を意識して用いることが必要となる。これらの事柄が正しければ、自分の意に反して改宗する人はいないはずである。また福音を聞くすべての人に、改宗は可能となるはずである。

「おとなの改宗」という言葉を短かく定義して,経験と学習により,自分で我々と神との関係についての知識を得ること,およびその関係に付随する霊的な考えや手段を発見してそれらを用いることとする。そのような知識や考えを求めるようになるまでに、信仰は人に導かれ育てられて成長するであろうが、ある日、我々はひとりひざまずき、自分で問わねばならない。宗教的な知識、予言の霊感、いましめ、約束、霊的たまものを我々はつみ重ね、たくわえることができる。

しかし過去から借りるものがそうであるように、それらのものも、我々自身のものとするためには、新たに獲得し、経験せねばならないのである。その宝も、個人的な確信により生活において火のように光を放たなければ、ただの貴重品に終ってしまう。確信は聖霊のたまものから生まれる。聖霊は我々が求め、従う時に働くのである。

無論、聖霊は子供のなかにも働く。しかし子供が成長して 疑いや反抗心をいだく扱いにくい試練の時期にはいると、霊 的な力の実在を新たに理解することが必要になる。

改宗の過程がいつ始まり、いつ終るかは年齢に左右されない。子供時代には独立ができず、人から影響されるものである。子供たちは物質的なことのみならず、霊的な導きという面においても権威を受け入れやすい状態にある。子供は従順にふさわしい報酬として、親の世話や保護を受ける。この時代には教化を受けやすいものである。先天的な能力をひきだすにしても、何らかの方法で訓練するにしても教化にはそれぞれのよさがある。しかしそこには、自分で経験したいという気持をつんでしまい、いつまでもひとに頼りたがる子にしてしまう危険がある。

年が進むと、権威に対する関心と反撥心とが衝突して、親が提供する安全な従順の道は、それほど受け入れられなくなる。子供が知的、感情的に独立すると親や教会の権威と衝突するようになり、神聖な家族のきずなはあやうくなる。パウロが理解したように、幼な子らしいことを捨ててしまうのである。(Iコリント13:11)「おとなの改宗」をする時期は成長の一過程としてやってくる。次の言葉は、その批判的な年代に向けられたものである。

デンマークの哲学者キルケゴールは書いている。

人間最高の情熱は信仰である。その信仰において、どの 世代も前の世代がなした以外の地点からは出発できない。 どの世代も再び始めるのであり、先人が己れの仕事に忠実 に立場を悪くしない限り、世代は先人以上には達すること がないのである。

フィリップス・ブルックスはそれを簡単な言葉で述べた。

第一の信仰と第二の信仰とがある。第一の信仰は時と土 地とに属しているために信仰された,他の人からもらう伝 統的で簡単な幼な子の信仰である。第二の信仰は個人的な 魂の確信である。

あらゆる世代に対するチャレンジとは, この第二の信仰, すなわちおとなとして改宗し、その改宗の過程から生じるす べてのものを自分に負うことである。それがまだなされてい ないならば、いつか、人の言葉をオウムのように真似し、人 の経験を借りていることが意味ないとして捨て去られる日が 来るであろう。社会や家庭の抑圧で第二の改宗の時が引きの ばされるかもしれない。しかしそれは自分の力がないために そうなるのである。みたまの偉大な力によって改宗した例は いくつか記録に出ているが、それはごくまれなことで、我々 のだれにもあてはまることではない。直接の啓示による奇跡 的な経験は、それだけ重大な荷を背おうべく召されている人 々に与えられるように思われる。しかし、そうであってさえ 改宗というものはペテロに見られるように、波のあるもので ある。我々のほとんどにとって、成長する種のようにひそか で目立たないが確実に信仰を伸ばす方法がある。その方法に よって成長した信仰は、地味ではあるが常に変らず教会で主 の信頼を受け奉仕している人々の生活の中に見出すことがで きる。そのようなたずね、求め、門をたたいた人々を、私は 「実験者」と呼びたい。彼らが信仰を育てた方法について話 す前に、関連はあるが違っているふたつのグループの改宗に ついて話してみよう。

ひとつは、改宗あるいは福音に対する証を、限りがあって はかることができるものと受けとった人たちである。彼らの 証はある特定の言葉や行ないにより表わされるものと考えて いる。またそれは大切なものなので、時折くり返される試験 にさらされるべきではないと固く考えている。

これらの人たちは誠実で信仰厚いが、孤立しており考え方は 狭い。読書も思想も、信仰を最初に理解したままの状態に保 つのに必要なだけで、その範囲を出ようとしない。彼らは自 分で確信の得られることだけに満足している。宗教を比較し たり歴史的に見ようなどという胃険をする好奇心もない。彼 らは善良で人を傷つけないが、頑固で自己防衛心が強く成長 は自分の内部だけにとどまる。彼らにとって一番の問題は、 若い人々に好かれないことである。

もうひとつは、青年期の反抗心がいつまでも消えない人々である。彼らはこの世的な学問に耐え得るだけの用意をしてこなかった。前のグループと同じく彼らも権威に頼りすぎる

が、違ったタイプである。彼らは自分の思想をはみだしてまで、有名な学者たちの言葉は何でも受けいれ、反面、霊的な経験は試しもせずに反対する。このグループの人の多くは、前のグループの人々の狭さや堅苦しさに反撥しているように見える。彼らは道徳的、良心的であり、仕事においては有能である。宗教においては、聖霊の声に耳を傾けるという自己訓練ができていない人たちである。彼らは聖霊に従うということを、正しく理解せずに、知性を眠らせることだと恐れ、ただ拒否するだけである。彼らは正しく理解できずにいる。そのことをイマニュエル・カントはこのように言った。

知性が衰え、倒れる限界というものがある。そしてその 限界においては、神、自由、不死不滅に関わる疑問が頭を もたげてくる。

以上両極端をあげたが、では進んで実験しようという人々 のことを考えてみよう。彼らはいろいろな宗教をひやかしに かじるのではない。彼らは宗教的経験や教えを、他の目標と 同じように系統だって満足のいくように求める人々である。 他の能力と同様に霊的な力をも伸ばしたいと望み、そのため に当然従うべき規則あるいは律法に従って、実際に霊的な力 を増している。たとえば彼らは祈ることが単に確信や励まし を与えるだけでなく、霊的な力の根源であることを知ってい るのである。また権威あるものをとりいれることを知り、そ れを個人の考えや意見と調和させている。主が約束しておら れる導きの方法に正しい関心をもち、幼な子の信仰からむず かしい時期をのり越えておとなの改宗に達したのである。彼 らにとって信仰は、社会への参加をうながす推進力であり、 避難所でもある。信仰が避け所であることは詩篇23篇にあら わされている。この予言者が歌ったように,主は苦しみの日に とりでとなられる。信仰のもう一面は、行ってすべての国民 に教えよと命じられた救い主の言葉にあらわれている。 (マ タイ28:19)

経験によって信仰を得る方法は、救い主が求め、捜せ、門をたたけと勧められたことにはっきり示されている。(マタイ7:7-11)またユダヤ人が救い主の知恵に驚いた時、主は、教えはわたし自身の教えではなく、わたしをつかわされた方の教えであると言い、「神のみこころを行おうと思う者であれば、……教えが……わかるであろう」と述べられた。

(ヨハネ7:14-17参照) 宗教的な活動のなかから得るものについて、近代の啓示はさらにはっきり約束している。

誠に、主かくの如く言う。その罪を捨ててわれに来り、 わが名を呼び、わが声に従い、わが誠命を守るあらゆる人 々は、わが面を見てわれ在るを知ることあらん。

もし汝らわが誠命を守らば、御父の完きを受け、わが御父に於ける如く、汝らわれにありて栄を得べし。この故に汝らに告ぐ、汝ら恩恵に恩恵を加えらるべし、と。(教義と聖約93:1,20)

これらの約束はみな行ないが条件となっているが、行ない それ自体は勉強である。

自由な選択によりおとなとして改宗するには、それまで積み重ねてきた信仰や過去に得た知識を拒むのではなく、それらを充分に自分のものとし、経験により進歩した自分の霊的力が正しい原則によって導かれるようにすることである。それは人生の課題である。人生の一時期における確信は、次の時期の確信を生むための準備、前奏でしかない。我々は、信ずることは勉強や経験をやめることではないということを常に忘れてはならない。

使徒がいやすことのできなかった病気の少年の父親の言葉に、改宗が終りのないものであることが示されているのではないだろうか。子供が救い主のみもとにつれて行かれると、主は言われた。

「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」。その子の父親はすぐ叫んで言った、「信じます。不信仰なわたしを、お助け下さい」。(マルコ9:23—24)

我々も同じである。

改宗は一ケ所にとどまりもしなければ、終りもしない。我々は今現在の信仰を持っているが、将来はさらに強くなるのである。いまだに自分の信仰を持っていなければ、それは不信仰であり、何かの援助を仰がねばならない。我々は信仰によって、意味と目的を知り、まだ示されていないことを期待するのである。少しずつ、神と我々との関係が現実に存在することを知るようになり、今ははっきりわからなくとも、改宗は静かにいつまでも続いていくのである。



ピーターは はじめての びょういんの へやを ぐる っと みました。こんやは うまれて はじめて お とうさんと おかあさんから はなれるので たとえ かん ごふさんが おとうさんと おかあさんに すぐちかくに いてもらうと やくそく してくれても こわくなりまし た。おいしゃさんも とても しんせつでした。おいしゃさ んは あしたの あさの しゅじゅつの ことを ピーター がわかるように やさしい ことばで ゆっくり せつめい してくれました。

びょういんは 大きかったのですが びょうきのひとで いっぱいでした。ピーターは おとなのへやの はずれにあ る ちいさな へやの ベッドに ねました。ピーターは となりの 大きなへやに たくさんいる びょうきの ひと たちのことを かんがえると とても こわく なりまし た。ピーターは なきたく ありませんでしたが ちょっと のあいだ いったい どうしたら よいのか わかりません でした。ピーターは もうふの カバーを ひっぱって あ でに つけて なんとか ひとりでいる とても こわい きもちを なくそうと いっしょうけんめい おいのりを はじめました。

で ともだちといっしょに いつも うたった 「なぐさめ の イエスさま……」という うたが こころのなかに う かんで きました。この ことばを きくと いつも とて もうれしいきもちに なりましたが こんやは もし うた わなければ むねが やぶれそうなほど とても うたいた くなりました。ピーターは うたいはじめました。 はじめ は とても ちいさなこえが だんだんと 大きくなって いきました。

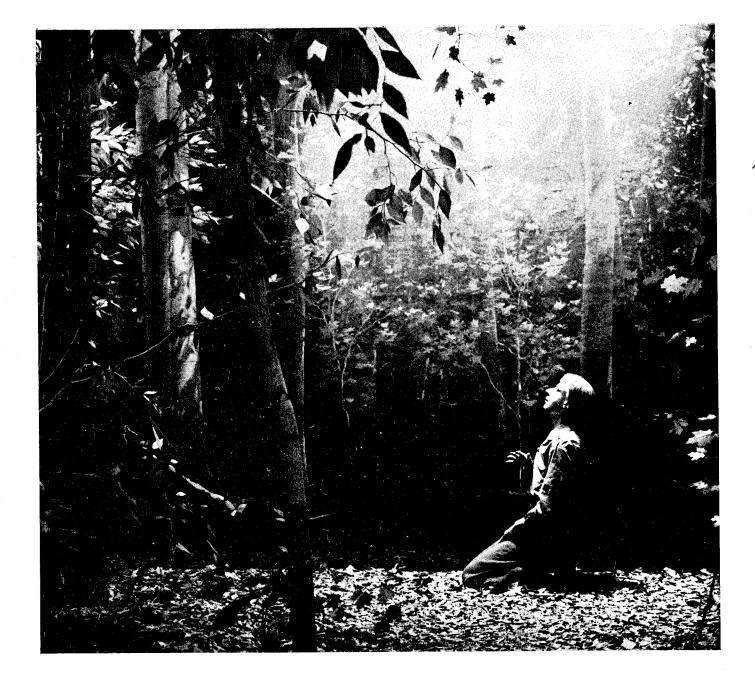
ドアの そばにきた かんごふさんは よくしっている うたを こころを こめて うたっている ちいさな すん だ こえを ききました。

すんだ ボーイ・ソプラノの うたごえは となりの お となの ひとの へやまで きこえて きました。

みんなは はなしを やめました。ラジオの スィッチも きりました。そして しずかに ききました。

「なぐさめの イエスさま……」と イエスさまを しんら いして うたっている しょうねんの うたを きくと あ るひとは 目になみだを うかべました。

ピーターは うたい おわると ベッドに もぐりこみ ねがえりをうって ねむり はじめました。もう さびしく ピーターが おいのりを おえたとき にちょうがっこう ありませんでしたし なにも こわく ありませんでした。



# きせきの朝

マージェリー S. キャノン リュアン G. ウイルキンゾン

→ 年ジョセフ・スミスは家からあまり遠くない森の中に 入ってみたいと強く思いました。早春の風は木々を通りぬけてなおさら冷たく感じられましたが、ジョセフは気にならないようでした。たくさんの教会の間で混乱がおきてから二年後、ジョセフは一つの決心をしました。何をしたら良いのかわかっていました。ちょうど新約聖書ヤコブ書第一章の「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずにおしみなくすべての人に与える神

に願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」という所を読んでいました。ジョセフはどの教会に入ったら良いかを神に祈り求めようとしました。なぜ今までこう考えつかなかったのでしょうか。そのことばはかれの気持をかりたてました。そしてひそかに考えていた特別な場所にとても行ってみたいと思いました。やがてその場所に着くと立ちどまり、あたりを見まわしました。天の父と話をする時には一人きりになりたかったのです。太陽は今高くのぼっていまし

た。太陽の光はこずえにふりそそぎ、こもれびが足元の落葉をちらちら輝かせていました。ちょっと前まで森は春のいぶきにざわめいていましたが、急にかれのいる所ではすべてのものが静まり返りました。鳥のさえずりも小さくなっていきました。それは1820年の早春、14才のジョセフ・スミスが森でひざまずき祈った時のことでした。ジョセフはいつも天の父を身近に感じていましたが、口に出して祈ったことは今まで一度もありませんでした。しかしその時はどうしても口に出して祈るのが良いように思われました。

ジョセフが祈り始めるとすぐに、何とも言えぬ不吉な力がはたらきました。重苦しく息のつまるような暗黒が彼を包みました。彼は息をこらしました。とても恐ろしくなりました。どの牧師が正しく神様を知ってるのかを祈り求めることは良くないことでしょうか? 必死になって祈りを続けようとしました。しかし暗黒と共に悪の力が非常ないきおいでジョセフをとらえ、おさえつけたようなので、口が動かなくなりました。ジョセフは頭を低く下げて体にきつく腕をまきました。腕の中で自分の体がふるえおののくのを感じました。もう自分はこのまま死んでしまうのではないかと思いました。

おそいかかる悪の力を振り捨てようと全力を尽しながらジョセフは再び祈り, 天の父に助けを呼び求めました。

突然,光が現われ大きくなると同時に,悪の力も急に離れていきました。見上げるとジョセフには,太陽にも増して輝く不思議な光の柱が見えました。まぶしさに目を細め,手でおおいました。光は天からしだいにおりて来ました。そして光のあたる所はみな輝きわたりました。

初めは木の枝が燃えているにちがいないとジョセフは思いましたが、そうではありませんでした。そして光がジョセフの上にとどまった時、口では言い表わせないほどのうれしい、暖かな気持で胸がいっぱいになりました。

その瞬間,ジョセフは光の中に二人のおかたが立っていらっしゃるのをみました。それは天のおかたであるにちがいないと思いました。

一人のおかたが言いました。「ジョセフよ, これは私の愛する子である。彼に聞け」非常なおどろきとともに, 何が起ったのかわかりました。

自分の上に立っておられるかたは本当に天の父であり、も う一人の方はイエス・キリストなのです。ジョセフはあっと うされて声も出ませんでした。あまりの輝きとそうごんさ に、ショセフの心は、へりくだり、かしこむ気持でいっぱい になり、言葉も出ませんでした。

ジョセフは目の前の光景を見ると、神様はたくさんの牧師が言っているような電気や磁石のような力のかたではないことにおどろきました。そしてこの世の人々は天の父の姿にかたどって造られたのだとわかりました。神様は人が話すようにジョセフに話しました。もうだれも決っして神様は自分の子供であるこの世の人々に気をくばることがなく、ぼんやりした姿であるとは言えないはずです。神様はジョセフの助けを求める祈りに答え、栄光に満ちて今、目の前に立っておられるのです。

ジョセフは心の中で何を質問したら良いのか考えました。 彼は思いきって聞いてみたでしょうか。おそらくえんりょしないで、どうしたら良いのか聞いたのでしょう。そうでなければ、そのほかのどこへいって聞くことができたのでしょう。まえに彼がある教会に行った時、その教会こそ正しくほかのは全部まちがっていると言われました……でもほかの教会でもそれと同じことを言われました。どれが本当なのかはっきりさせるために、ジョセフは神様からの助けが必要でした。この問題こそジョセフにとって一番大切なことでした。今ごそ絶好の機会です。どうしても聞かなくてはなりません。質問の言葉がぱっと出てきました。「これらの教会の中でどれが正しいのですか。どれに入るべきですか。」

イエス・キリストが答えられました。そしてどの教会にも 入ってはいけないとおっしゃいました。そのほかの多くのこ ともおっしゃいました。

ジョセフはどのくらい救い主と話したか知りませんでした。時間がたつのに気づきませんでした。しかし光の柱が小さくなり始めると天のおかたはのぼっていかれました。

ジョセフが自分の囲りを見回すと、頭の上には木の枝がく もの巣のようにからみ、若葉は太陽に光り輝いていました。 ジョセフはこんな素晴らしいことが起こった森を、まるでは じめて見るような気がしました。でも、そこはいつも来てい てよく知っていた所なのでした。そして、自分の手や服を見 ましたが、何も変ってはいませんでした。

少年ジョセフ・スミスはその朝森で起こったことのすべて を理解したとは思いませんでしたが、そのことをしっかりと 心にきざみました。ジョセフは森を出て陽の光を受けなが ら、もう決して以前の自分ではないのだと思いました。

1970 年チルドレンズ・フレンドより



マーガレット I. キトー

と も子ちゃんは、お母さんのそばに寄りそっていました。お母さんのひざの上は、なんと気持がよいのでしょう、この上にのっかっている時が、とも子ちゃんの一番好きな時間なのです、お母さんと楽しく話をする特別なときなのです。

一日中、とも子ちゃんは外であそびます。だって、4歳のとも子ちゃんにとってあそぶことは、いっぱいあるんですもの。まずお人形さんとあそんだり、三輪車にのったり、近くの、もうおじいさんになった犬のポチとじゃれまわったりしてあそびます。ときには、お父さんのお手伝いで、庭に水をまいたりします。また、とも子ちゃんの一番のお友達けい子ちゃんと、砂のお城を作ったり、草の上にねそべっているけい子ちゃんの足のうらや、鼻を、長い葉っぱで、くすぐったり、いたずらをするときもあります。

今日も、楽しい一日が終わり、とも子ちゃんは、いつものお気にいりの場所にすわっています。あたたかいお風呂に入り、きれいになって、かわいい、みずいろのねまきを着て、お母さんのここちよいひざの上で、お話をしています。

毎晩、とも子ちゃんとお母さんは今日あったことを話しあったりします。「きょうはね、けい子ちゃんとすごくきれいな砂のお城を作ったのよ」「三輪車競争で一等になったけどひざをすりむいちゃった」など……。とも子ちゃんとお母さんは、外の美しい景色や、楽しかったことを、思い出して笑ったりします。お母さんは、いつも、とも子ちゃんに「私達が、いつも楽しくて、幸せなのは、全部天にいらっしゃる神様のおかげなんです。だから、お祈りするときは、今日の楽しかったことを感謝することを忘れないようにしなさい」と言います。

今日,とも子ちゃんにとって、すばらしいことがたくさんおこりました。お母さんは、とも子ちゃんの行ないを見ていたでしょうか? 今日、ポチと遊んでいたとも子ちゃんが、どんなに勇敢だったか、お母さんは見ていたでしょうか? お母さんは、裏庭にあるかわいい草に、新しい芽がたくさんできているのを知っていますか?とも子ちゃんと、お父さんが、庭の水まきをしているときに見つけたのです。

それに砂のお城/ お母さんは、とも子ちゃんたちが作ったすばらしい砂のお城を見たことがあったでしょうか。お母さんは、小さなとも子ちゃんがしたと同じようなことをしたことがあると言いました。

「こんなにすばらしいものをくださった天のお父様に感謝することを忘れないようにしましょう」というお母さんのことばを, とも子ちゃんは思い出しました。

それから、とも子ちゃんは、お母さんの暖かい腕にだきしめられました。これが「お話の時間」が終って眠る時間がきた合図なのです。そして、とも子ちゃんとお母さんは、ベッドのそばでひざまづいて、天のお父様に、感謝のお祈りをします、お母さんが、最初、お祈りの言葉を言って、とも子ちゃんが、いつもその言葉をくり返していました。

でも、今夜は違います。とも子ちゃんが立ちあがりはじめたとき、 お母さんはしずかに言いました「とも子ちゃん、長い間 お 母 さ ん が、あなたのお祈りのお手伝いをしてきましたね、でも、今日から は、天のお父様に、とも子ちゃん一人で、お祈りできますね。きっ とできると思いますよ」

とも子ちゃんは、お母さんの顔を見あげました。

「お祈りは、どのようにしてはじめるか知っていますね」とお母さんが言いました。

とも子ちゃんは、コクンとうなづきました。

「最初に、感謝したいことを、天のお父様に、おはな し し な さ い。そして、とも子ちゃんが、天のお父様にしてほしいと思うことを、お願いしてごらんなさい」とお母さんは、続けて言いました。 とも子ちゃんは、また、コクンとうなづきました。

「そして覚えていますね。最後に『すべてを、イエス・キリストさまのお名前を通してお祈りしました』と言って終わるんですよ」とも子ちゃんは、お母さんのひざの上からおりて、お母さんのそばにひざまづきました。見あげたお母さんの顔は、ほほえんでいました。とも子ちゃんは、静かに目をとじてお祈りをし始めました。とも子ちゃんの声が低く、静かに、聞こえています。

「天にいらっしゃるお父様、今日一日、お友達と楽しくあそぶことができましたことを感謝します。どうぞお母さんとお父さんを守って下さい。そして私も、守って下さい……すべてをイエス・キリストさまのお名前を通して、お祈りしました、アーメン。」

お祈りが終って、そっとあけたとも子ちゃんの眼は、輝いていま した

「お母さん,一人でお祈りするって,すばらしいことね」と,と も子ちゃんはうれしそうに言いました。

## アジアにおける末日聖徒軍人の影響

W. ブレント ハーディー

へ リコプター砲術練習艦の指揮官として、仕事でベトナムへ二度目の旅行をしたことのある大祭司が、最近このようなことを書いてきた。「……しかし教会の大会のおかけで私は味方であれ敵であれ、この国の人々を肉親のように感じるようになりました。彼らに死ではなく、真理の福音という命を伝えることのできる日が早く来るように、と願っています」この言葉はアジアにおける我々末日聖徒の軍人の心を伝えるものである。

韓国の氷でおおわれた山々から日本、沖縄、台湾、フィリピン、さらにベトナムの湿地、タイの広原にわたり、何十万というアメリカ人軍人が駐屯している。そのうちの6千から7千人が末日聖徒である。

支部,地方部,伝道部の設立にあたって彼ら末日聖徒軍人のなした貢献は,先駆者エライヤスの働きに比べることができる。教会は,第二次世界大戦以後,何千の末日聖徒軍人や家族がやってきて日本の国に広まったが,それと同様なことが韓国でも起きた。朝鮮戦争でこの地へ来た末日聖徒の軍人が,熱心で有力な人々に福音の光を伝えたのである。古くからのこの土地における伝道成功のための足固めはこうして築かれてきた。新しくできたフィリピン伝道部は発展ぶりが最

もめざましい伝道部のひとつであるが、この伝道部も同様に してできたのである。台湾では、各地に散らばる少数の末日 聖徒軍人が、その地に主のみわざが始まる時のために援助や 励まし、信仰、祈りを捧げている。

アジア諸国を通じて、末日聖徒軍人には、二重の役割がある。それは初めは準備であり、国に安定が戻ってからは、経験を生かして地方の教会指導者を助け導くことである。タイでは軍人グループの要請により宣教師が伝道に送られた。

同じことが荒廃したベトナムにも見られる。軍人とベトナム人との接触は安全確保のため極度に限定されているが、それでも彼らの影響は感じられる。サイゴンには60名のベトナム人と40名のアメリカ人が出席する支部があり、毎月その人数はふえていっている。ベトナム戦争が落着けば、ベトナムの人々との交際が自由になり、それと共にキリストの教えを紹介する機会も増すであろう。そのためのベトナム語による本や資料が現在準備されている。

アジアにおける末日聖徒の軍人の影響はアジアの国民に限られてはいない。軍隊での生活環境にあって、教会員が困難な事実や選択の機会に直面する時、家庭や家族との思い出が遠く彼らに語りかける。彼らは温室育ちの「生まれ故郷のモ





左端の写真はヘリコプターで軍人グループの訪問に出かける前ベトナム南地方で長,ジョセフ・マクフィー兄弟。その他の写真はベトナムの地方部大会に出席する軍人会員,大会後軍用トラックで前線へ戻って行くところ。





ルモン教徒」であることを捨てて、自分の仕えるものを選ば ねばならないのである。

感謝すべきことに多くの人にとって、霊的生活における危機は証を強め、進歩しようという望みをかりたてるものである。そして彼らが己れを見出し、福音の意味を知った時にはそれを人々にわけ与えたいと願う。彼らは自分を新しい目でみつめるのである。生活に焦点があわされ、目標が定められる。置かれた環境はつらく、義務は残酷であっても、彼らは神の息子にふさわしく生きようと固く決意している。

ベトナムの集会ではいつも、妻や家族に対する感謝と、自分はもっと良い夫や息子になろうという言葉が述べられる。50パーセントのモルモンであったある青年は、教会員であることに新たな意味を見出して、除隊後宣教師になった。悔い改めて再び主の祝福を受けるようになったのである。戦いで仲間を失ったある教会員は人生を違った見方で見るようになり、もっと意義ある人生を送ろうと決心した。戦争はみにくく、無駄で不幸なことである。だがその悲しみは、物心の荒廃の中からも霊的にまた決断力において成長した人々を見ることにより、幾らかではあっても慰められるのである。

軍人の間での教会組織は、可能な地域では支部、そうでない地域ではグループが作られている。ベトナムだけで60から70のグループがあり、3地方部にわかれている。各地方部は地方部長会と地方部評議員により管理される。才幹ある人々を見ると、主がこの地方部の指導者を備えて下さったと感じ証が強まるのである。以前に監督だった人、ステーキ部長会

に入っていた人, 副監督だった人, 高等評議員だった人大祭司, その他多くの経験を経てきた人々。地方部評議員は定期的に各グループを訪問する。できる地域ではホーム・ティーチングが行なわれており, 敵の攻撃を受けた際には臨時の訪問もある。神権昇進が行なわれ, 神殿推薦状が発行される。アジアに駐留するほとんどの末日聖徒軍人にとって, その時期は教会に活発に, 奉仕する機会となる。

アジアにおける末日聖徒軍人について話すには、教会の物的成長に対する彼らの貢献について語らねば不十分である。全アジアを通じて礼拝堂は、軍人の経済的な補助や労働奉仕を受けて建てられてきた。彼らは礼拝堂を建てる資金が足りない人々のために貢献しているのである。ベトナムにおいては、軍からもらう月の手当をベトナムの教会建物や伝道資金に捧げている軍人が多い。これと同じことはアジアの各伝道部で行なわれているのである。このような物質的な方法と、数えきれない愛の行ないを通して、末日聖徒軍人は現在と将来に備えて教会の物的福祉に貢献をなしている。

共に大会に出席し、じめじめしたジャングルでの悲惨な戦いのひとときを教会の大会に集い、「旅を終わらず死すも……」と歌う末日聖徒軍人の声を聞く人のみが、福音に生きることがもたらす魂の豊かさ、確信の深さ、慰めの源を感じるのである。教会員として立派に生きる彼らが「すべては善しすべては善し……」」と歌うのを聞く時に、彼らの証は聞く人の心を深く打つのである。



# 目標

管 理 監 督

ジョン H. バンデンバーグ

何 年か前、七十人最高評議員会の一員で、青年の良き理解者としてよく知られていたオスカー A. カーカム長老は、彼の父親が、うねにはるかむこうまで植えられているてんさいを間びくのに、楽しく、長時間仕事が続けられて、しかもスピードをあげる方法を考えついたことについて語った。それはただ、うねの何か所かにくいを打って、そこまで行った人はレモネードかちょっとしたキャンディーを食べて、小休止ができるようにしただけのことであった。若い労働者たちは長い長いうねを、いつも目に見えるくいという目標をめざして仕事を続けていった。

だれでも働く時には目標が必要である。

目標を達成するまでには、たとえば良い職業につくために 訓練を受けるとか、しあわせな末日聖徒の家庭を築くために 準備をするとか、何年かの時間がかかるのは当然である。その時々の目標は、人生の主要な目標達成に必要な指示を与えるものであり、毎日の活動に活力と興味をもたらすものである。長期目標、短期目標を正しくつかんでいるかどうかで、青年の人生に対する意気込みも決まる。課せられた課題をよくやれば興味や、やる気も起きて良い成績が得られるであろうし、授業中によく勉強すれば、卒業ということに大きな関心が生まれ、職業やその他の人生の目標の準備にも関心が持たれるであろう。

目標を設定する上でまず大事なことは、計画を練ることである。どこから始めようか、人生の「今」という時から?,日常生活の目標から?,それともこの世を去る時になって達成できるような目標から?,まず最終の結果に着目すると、人生のどの分野にも役立つ目標をたてることができる。短期目標は

計画がたてやすく実行しやすいであろう。しかしそれを有意 義な目標とするためには、その目標が最終的には全体的な人 生計画につながるものでなくてはならない。この世の生涯は 永遠の一道程である。永遠の旅には永久的な運命というもの がない。そのために、我々はまず長期の目標を設定しなくて はならないのである。我々は永遠という時をどこで過ごした いと望むであろうか。そこでどのような人々と共に住みたい であろうか。どのような活動に加わりたいであろうか。我々 は宇宙で最もやさしく最も栄光ある父なる神とキリスト・イ エスのみまえに住みたいのではないだろうか。たしかにそう である。それならば、我々はそのように喜ばしい永遠の状態 に入れるような目標を, 日毎, 月毎, 年毎にたてねばならな い。体に気をつける、才能を伸ばす、仕事上の技能を得る、 楽しい生活を送るのに必要な知識を吸収する、というのはそ のような目標の一例である。神権の召しを尊ぼうという青年 の決意、良い妻、母親となるための準備をしようという女性 の決心は、教会の若人にとって、他のすべての目標を包含す る目標である。その目標は、人生における正しく価値ある努 力すべてに、意味と永続する満足を与えるものである。

目標は当人がたててこそ、最も効果がある。我々は他人ではなく自分とぶつからなくてはならない。我々はみな長所も欠点も違うのであるから、それぞれ自分自身の目標を設定しなくてはならない。我々は自分の長所を最大限に用いて、弱点を克服し、可能性を最大に伸ばす目標をたてるべきである。工業学校を選ぶべきであるのに文化系の学校へ行く人もいれば、会社員がふさわしいのに教師になりたいという人もいる。

次に再び目標をたてることについて考えてみよう。つまり、 我々はどのようにして目標をたてたらよいのであろうか。す でに指摘したように我々はまず永遠の目標をたてる。それか ら、永遠の目標に到達するために、学業をおさめる、伝道の 準備をする、結婚の相手をさがす、神殿結婚にふさわしい生 活をするなどの中間的な目標をたてるのである。そして人生 で最も重要な十代の時にたてるそのような目標を、十代の終 りには達成できるように、年毎の個人的な目標にわけるので ある。

年若い教会員は全員教義と聖約を読まねばならない。特に 132章は大切である。この章には 目標を達成するために 必ず もとづかねばならない基盤が記されている。主は, 我々にとって大切な目標は, 結婚の新しくかつ永遠の誓約を受けることができるように, ふさわしい生活をすることであると指摘

しておられる。永遠の結婚の準備をする若人にはふたつのことが約束されている。それは、今も永世にも夫、妻として共 に生活できることと、永遠に家族という王国が続くことであ る。

我々のほかにどの人々がこのようにすばらしい約束を受けていることであろう。主はこのように言われた。「この約束はまた汝の約束なり。汝はアブラハムより出で、この約束はアブラハムに為されしによる。この律法によりてわが父の事業は続き……」(教義と聖約132:31)

正しい目標を定め、どのような環境のもとでもその目標からそれないならば、我々は永遠の御父と救い主のみまえに帰ることができ、永遠のよろこびである昇栄と永遠の生命とを祝福されるのである。

### 聖餐の聖句伴奏曲



### 7月聖餐の聖句

### 大人日曜学校

### 子供日曜学校

心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見る であろう (マタイ5:8) 私は主が命じたもうたことを行って行う

(I = -7 + 7 + 3 : 7)

礼拝の原則

ーセが燃えるしばに近づいた時,靴をぬぐよう にと命じられた。今も聖い場所へ行く多くの人 々はそこで靴をぬぐ。もし礼拝堂へ帽子をかぶったま まで入る男性がいたら、それを見てみな驚くに違いな い。しかしある場所では敬虔な思いを表わすために帽 子をつける。つい最近まで、頭をおおわない女性は中 に入れないという聖堂があった。これらはみな聖なる 場所で敬虔さを示すための外面的な形である。それら は敬虔ということを理解する助けにはなるが、まこと の礼拝の心髄がそこになかったならば、何の価値もな いことになる。井戸へ水を汲みにきたサマリヤの女 は、サマリヤ人がしているように山で礼拝するのとユ ダヤ人がしているように神殿で礼拝するのとどちらが 正しいかと,外面的な形について質問した。救い主は よくなさるように、その時も形を無視して直接本質に 言及された。「まことの礼拝をする者たちが、霊とま

管理会長

デビド

こととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている」(31)

礼拝の基本原則の第一は,礼拝は霊的な思いに基く ということである。

救い主はどう言われたであろうか。霊をもって礼拝しなくてはならないと言われたのである。霊的な思いは我々の礼拝を支配する。キリストのような行ないをするためには、まず心がキリストのようにならねばならない。我々は不敬な行ないをする人を見れば、その人の心もそうであると信じるのである。行ないを変えるにはまず思いを変えなくてはならない。敬虔さに欠けた人たちを叱るよりは、彼らが心に神の王国を求め、生活に救い主を迎え、家庭では一番親しい友人の家にいるように振舞うよう、導くべきである。そのような思いを持てば、自然行ないは敬虔になる。デビド O.

マッケイ大管長は、「敬虔と秩序の根本は自制の原則 である」と言った。またラスキンの「敬虔は人の世に おける最も高貴な精神状態である」という言葉を引用 して、「敬虔は力のしるし、不敬は弱さの確かな証拠 である。聖なるものをあざける人は決して立身しない であろう。人生のよきものは尊ばねばならない。さも なくば人は試しの日が来た時にすぐにもそれらを否定 してしまうであろう。」

復活された救い主が弟子たちといっしょにエマオへ向かい、ご自身がイエスであることを明かさずに弟子たちの前を去られた時、彼らは自分たちが主の近くにいたことを知って互いに言った。「お互いの心が内に燃えたではないか」(ルカ 24:32)。我々は日曜学校や聖餐会で敬虔な気持になった時、同じようにこう言えるのではあるまいか。「お互いの心が内に燃えたではないか」と。

礼拝の第二の原則は、神聖な場所は我々に神を思わせるということである。

私は、神を礼拝するのに山と神殿ではどちらがよいかと言ったサマリヤの女に耳を貸すのではない。大切なのは騒々しいこの世的な雰囲気よりも、まわりが敬虔さをかもしだす建物の方が敬虔になりやすいということである。

救い主は荒野で思索の40日間をすごし、そののち変貌の山へ登られた。天父に祈りを捧げる苦悩の時にはゲッセマネの園でひとりになりたいと願われた。エライジャはほら穴に行き、雷や火ののちに静かな細い声を聞いた。予言者ジョセフ・スミスは聖なる森へ入った。

礼拝堂はこの目的のために建てられ、献堂されているのである。ある意味で礼拝堂のひとつひとつは、世の騒がしさを離れて集まり、祈りを捧げる聖なる森とも言えよう。我々は、開会の前奏中に隣りの人と話すことは礼拝を邪魔することであると気づいているであろうか。礼拝堂内では会話と礼拝は両立しない。互いに反するのである。

私は、少年の頃通っていたハンツビルの礼拝堂の壁に「ここは主の家です」と書いてある絵がかかっていたことを覚えている。我々はみなこの言葉を心にとめるとよいであろう。そこは主の家なのである。ある意味で、この礼拝堂は我々ひとりひとりにとって聖なる森である。大理石の神殿や見事な聖堂が必要ではない。質素な礼拝堂で十分である。我々のとる態度でそ

の場所が神聖になるのである。建物は礼拝の場として 献堂されているが、我々自身をも礼拝のために捧げね ばならない。そうした時にのみ、エライジャに静かな 細い声が語りかけたように、天父のみたまが我々の心 に宿り、我々に語りかけるのである。

考えなくてはならない礼拝の原則の第三番目は,礼 拝行事の各々が敬虔さを築きもし,こわしもするとい うことである。

日曜学校の礼拝行事は、過去50年にわたって、指導者と参加者がよく準備をすれば、必ず敬虔な雰囲気が生まれるという観点にたって改善されてきた。よく練習をしたオルガニストは開会の前に音楽を流して、出席者に救い主の教えを思わせることができる。本当の礼拝行事では、開会の讃美歌と祈りは天父の祝福を求めるものである。監督と管理会長はよく準備して不必要な発表はしない。礼拝の精神にそぐわないバスケットボールやパーティーや食事会その他の行事に関係した発表はしてはならない。指揮者は歌詞の意味を強調しながら威厳をもって練習の歌の指導をする。

管理会長会は前もって二分半の話をする人や日曜学校で聖餐を行なっている所では聖餐の聖句をリードする人、聖餐の祈りを捧げる人と会い、参加者である彼らが責任をよく果たすことに管理会長会が大きな関心をよせていることを示し、なぜ礼拝をするのか、どのように行なうのが一番よいかを知ってもらうようにする。管理会長会の兄弟たち、各責任についてあなたの考えていることを紙に書き、その責任を頼みたい人に手渡すというのはよい考えである。彼らにそれを読んでもらい、礼拝の始まる前にひざまづいて祈り、心を低くして準備することができるように自分の召しの神聖さをひとりで考えてもらうようにしなさい。世のわずらいを離れて聖霊と調和できるように参加者を祈り会に招きなさい。

礼拝行事を改善するのに、チェックリストを使いなさい。各項目に関心をもち、完全に向かって努力しなさい。すべての思い、すべての状態、すべての行動がただひとつの目的、すなわち天父の聖きみたまを我々のそばに招くという目的につながるよう、礼拝から粗野な言動をなくすために、敬虔な言葉、上品な振舞いをしなさい。動作すべてが大切である。声の調子で心が表われる。主が我々と共にいられるよう、すべてのことに完全をめざしなさい。



# 家庭生活を 織りなすには

トンガ女王 ハラエバル・マタアホ

〔1968年11月27日,トンガ伝道部50周年記念祭の一環として開かれた扶助協会ホームメーキング展示会でのトンガ女王の講演。女王の許可により転載〕

私は、今日とこにつどって下さいました長官、貴族、イギリス領事夫人、アメリカからおいでになったタナー長老御夫妻、トンガ伝道部長グロバーグ御夫妻に心からの敬意を表したいと思います。またこのようなすばらしい大会の開会に尽力して下さいましたトンガ国すべての末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会の指導者と会員達にも。

神様の御国建設のため行なわれている数々の集会に出席することは本当にすばらしいことです。この展示に見られる立派な仕事を果たしておられる扶助協会の会員の皆様に、私は心から感謝しています。私達は次のことも心に留めていなければならないと思います。それは教会の仕事を、丁寧に愛情をこめて果たすこと、私達のいこいの場所である家庭を整えることが、我がトンガ国の婦人達の否、全世界の婦人達の務めであるということです。

私は、これから「二つの単語」をもとにお話したいと思います。私の話が皆様に良く理解されますようにと願っています。その1つは、英語でhusband(夫)という単語であり、もう1つは wife(妻)です。husband は house(家)と、band(縛るもの)という単語からできました。 もっと詳しく調べて見ると「回りを包む」「一致団結する」「強固にする」さらに「保護と扶養を与える」という意味があります。実際、夫は保護と扶養を与え、家庭に関するあらゆるものをひとつにたばねているではありませんか。もし、立派な夫であれば、彼はつらい仕事とか家を建てるというような男性し

かできない仕事をする強い力や努力によって、家族に必要な すべてのものを準備します。

もちろん夫はこの責任を真心から果たしています。なぜなら、彼の家庭には、妻や子供たちそしてお互いの愛と尊敬という大切なものが存在するからです。当然、彼は、政府であれ、教会であれ、家族あるいは社会であれ、家族ができ得る限り最上のものを所有することを望んでいます。そのような夫を神様から授けられた女性たちはなんと祝福されていることでしょう。

でも、「私は、神様の愛も感じていますし神様に対する知識 もあります。でも、私の夫は、真理を信じていませんし、家 族で永遠の真理に沿って生活することもできないので悩んで います」と、不満を持っている御婦人方もおいででしょう。

もし、このようなことが、クリスチャンの婦人の重荷になり、それが重すぎると思われるようになるのでしたら、夫婦関係についてもう一度考え直してみた方が良いでしょう。もし、このように感じている方がいらっしゃるなら、その方を勇気づけ、力と助けを与えてくれるようなすばらしい聖句を読んでさしあげたいと思います。その聖句は、新約聖書のコリント人への第一の手紙7章12節から16節です。こう書いてあります。

……そのほかの人々に言う。これを言うのは主ではなくわたしである。ある兄弟に不信者の妻があり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。また、ある婦人の夫が不信者であり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。

なぜなら、不信者の夫は妻によってきよめられており

また、不信者の妻も夫によってきよめられているからである。もしそうでなければ、あなたがたの子は汚れていることになるが、実際はきよいではないか。

しかし、もし不信者の方が離れて行くのなら、離れる ままにしておくがよい。兄弟も姉妹も、こうした場合に は、束縛されてはいない。神はあなたがたを平和に暮さ せるために、召されたのである。

なぜなら, 妻よ, あなたが夫を救いうるかどうか, どうしてわかるか。また, 夫よ, あなたも妻を救いうるかどうか, どうしてわかるか。

さて、私の愛する姉妹たち! もし皆さんが、自己中心的でなく、従順、けんそんで、クリスチャンの愛の精神をもち、行ないと言葉が聖霊によって導かれているならば、あなた方はそれらの影響力により、神様の道具として使われて、夫の心を良い方へ変えさせ、ひょっとしたら、彼もまた、あなたと同じように、すばらしいクリスチャンになるかも知れません。

では、次に二番目の単語、wife(妻)について、お話したいと思います。妻という言葉の意味にについては婦人たちはほとんど御存知ないことでしょう。私たちが結婚するとなぜwife(妻)と呼ばれるのでしょうか。この単語の語源から、その理由が少しわかると思います。英語で「wife」(妻)は「weave」(織物を織る)という動詞に語源を発しています。リンネルや布は、各家庭で織られていました。縫い糸でさえも糸車と呼ばれる道具を使って、各家庭で作られていたのです。それからそのたくさんの糸を使って、手ばたで布を作りました。元来妻は、このように糸を作ったり、布を織ったりしていたのです。ではまた、聖書の中から、引用してみたいと思います。旧約聖書の箴言、31章13、19、24節です。

彼女は羊の毛や亜麻を求めて、手ずから望みのように それを仕上げる。

彼女は手を糸取り棒にのべ、その手につむを持ち、 彼女は亜麻布の着物をつくって、それを売り、帯をつ くって商人に渡す。

先に述べたように、夫は、外側から、家庭を固く結びつけるためのすべての仕事をする責任を持っています。一方妻は家庭生活という織物を織る責任と機会が与えられています。 このことは、婦人たちの家族に無くてはならない幸福を準備するために家庭内で行なわれるものです。

愛する皆さま、家庭生活という織物を織りなすことは、私の知っている限りで最も大切な仕事です。それは世界中で一番美しい織物をつくる仕事です。その織物が、箴言に述べられているようなまことのクリスチャンの女性、夫や子供たちを幸福にしたいと願う女性によって織られるとしたら、それは何と美しくなることでしょう。

どの織物を織る時にも、私たちが打ち勝たなくてはならない試練と誘惑の時があります。なぜなら、すべてがうまくいくわけではないからです。休まず織り続けることにあきる日が来るでしょう。私たちの家庭という織物は、人には誰にでもおきる様々な問題や困難なことによって色づけされています。でも、もし恵まれてそれらを克服できたら、全体のデザインは前より美しくなるのです。すばらしいことではありませんか。私たちの心の中に、愛と理解があれば、克服された問題は他のどんな糸よりも強い金糸、銀糸となります。私たちがわがままでなく、家族を愛し家族のために働きたいと心から思い、勇気をもって雄々しく仕事にたち向うならば、あらゆる織物のうちで最も美しい家庭という織物を織りあげることができるのです。

妻である方、お母さんである方、皆さまの家庭はどのように織られていますか。皆さまは、平和と愛によって家庭をきれいに秩序正しく織りあげていらっしゃいますか。それとも秩序もなくでたらめに織りあげている妻ですか。その妻とは決して見出すことのできない自分だけの喜びや幸福を求めて家庭における責任を投げ出し、家という織機を離れる婦人です。最近自由と権利を主張し、家庭や家族間での妻としての従来の務めから解放されることを要求する婦人たちが多くなっています。このような婦人たちは、悔改めて神様から与えられた妻としての特権にたち帰らなければ、平和な家庭を営むのに必要な美しい織物を織りあげることはできません。

もうひとつ、特にお母さんに申しあげたいと思います。私たちの子供たちの生活や性格という織物は主に、私たち親を観察することによって構成されてくるということです。それに、子供たちは私たちから学ぶだけでなく、実際、私たちは子供の幼い時期に彼らの人生を織りこんでいるのです。事実、私たち親は、子供たちが生まれる前に、彼らの人生設計を織り始めているではありませんか。そうなのです。私たちにとって一番大切な織物ひとつは、子供たちです。その子供たちの人生が3つの要素、つまり、身体・精神・霊から成り立っていることを忘れてはなりません。私たちは、子供たちの体の成長のために必要なものを、全部準備し、精神面の向上に心をくだき、彼らを元気づけます。でも、私たちが彼らの霊を育て、助け、支えないなら、最も価値ある永遠の霊の養育に怠慢であるということです。

私たちが、母として、妻として、「はい、私の霊や夫と子供たちの霊は、この不安定な世界での辛苦にかかわらず、神様の愛と慈悲のうちに生きています」と答えられるならば、なんと幸せなことでしょう。

皆さまを心から愛しています。このような機会が与えられ たことを感謝いたします。



## 人の救い

十二使徒評議員

マリオン G. ロムニー

(1969年10月2日,年次総大会扶助協会ステーキ部管理会の集会における説教)

扶 助協会の初期の時代に、予言者ジョセフ・スミスは「婦人たちの扶助協会」に対して、「貧しい人々を助けるのみならず、人々を救うこと」がこの会の目的であると教えました。主の偉大なわざ、その栄光、すなわち、「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」(モーセ1:39)ことを手伝うのが、「婦人たち」に与えられた責任でした。

人の敷いがどんなに重要であるかは、主がよく強調されたことでした。

別々の時に、主はジョン・ホイットマーとピーター・ホイットマーにこう言われました。

さて見よ、われ今汝に告ぐ、すなわち汝にとりて最も価値あることは、汝今の世の人々に悔改めを宣べて人々をわれに導き、以て彼らと共に父の御国に休まんことなり。……(教義と聖約15:6,16:6)

また、ジョセフ・スミス、オリバー・カウドリ、デビド・ホイットマーに主は勧告されました。

汝ら,人の値は神の前に大いなることを憶えよ。

而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの悦び如何ばかりぞや。 (教義と聖約18:10,15)

これらの聖句は、人は「神の国」に帰ることで救われると教えています。

主は「人」という言葉を、「人間は霊と体とより成る」(教義と聖約88:15)と説明されました。

とこで使われている「体」という言葉はだれでも同じに理解できます。しかし霊という言葉については、末日聖徒はその意味を理解していますが、一般の方々はよく理解しておられないかもしれませんので、順を追って説明していきたいと思います。

#### 英智

主は予言者ジョセフ・スミスに教えられました。

人はまた太初に神と共に在りき。英智, すなわち真理の光とは, 創造されしにあらずまた造られしにあらず, 実にかかるべきものにあらざるなり。 (教義と聖約93:29)

またアブラハムに言われました。

われは上は諸天を支配し、下は地を支配し、……汝の太初より見たるところのすべての英智たちに勝ればなり。

アブラハムは自分の見たことをこう書いています。

さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。而して、これらすべてのものの中には、高 費にして偉大なるもの多くありたり。……神、霊なりしこれらの者の中に立ちて、……(アブラハム3:21-23)

#### 霊

これらの聖典から、霊は、創造もされず造られもせずはじめより神と共にあった「英智、すなわち真理の光」から造られたということがわかります。

主は、地に住む者たちが「神より生れたる息子と娘」(教義と聖約76:24)であると言って、霊たちが造られたさまを知る鍵を私たちに与えて下さいました。

「神より生まれた」これらの霊の息子、娘たちが似ていることについて、イテル書の中にはっきり書かれています。紀元前 2,200 年頃に、「主は……その姿をジェレドの兄弟……に示して」言われました。

見よ、……われはイエス・キリストなり。……汝らがわが形にかたどりて造られたることを今汝は見ずや。最初に一切の人々はわが形にかたどりて造られたり。

見よ、今汝が見るこの体はわが霊体なり。われはわが霊の体にかたどりて人を造れり。われは今わが霊のまま汝に現わるると同じ形の肉体を具えてわが民にもまた現われん。(イテル 3:14-16)

さらに私たちは、予言者により霊が物質でできた体を備えていることを教えられています。

……すべての霊は物質なり。ただ、ひときわ極微純粋にして、ひときわ浄き眼のみよくこれを見極め得るなり。……されどわれらの肉体 浄めらるる時、われらは霊はこれすべて物質なるを見ん。(教義と聖約131:7-8)

#### 人の誕生

イエスがベッレヘムでお生まれになる少し前,

……主(イエス・キリスト)の御声がニーフアイに聞えて、「……時は近づきたり。……われは……明日世の中に来らん。……」と仰せになった。( $\Pi$ ニーフアイ 1 : 12—13)

そして、2,200 年も以前に ジェレドの兄弟に現われたもうた霊体のイエス・キリストは、肉体をとって「世の中に」来られました。イエスはエロヒムとマリヤの子として、死ななくてはならぬ人間の生活に入られたのでした。

常にそうです。母親が生むのは、肉体をとった神の霊の子なのです。

これが、「人は何者なので……」(詩篇8:4)と尋ねた詩篇作者の問いへの答えです。

シェイクスピアも、畏敬の念に動かされてこう記しています。

なんというすばらしい傑作だ、人間って奴は/ その崇高な理性、その感覚や表情の無限な機能、適切な見事な動き、天使のような理解力、まったく神にも似た人間/ (ハムレット2幕2場)

#### 可能性をもってはかられる人の値

創造主は生きとし生けるすべてのものに、成長して親に似るという能力をもった子供を生み出す種を与えられました。それは草木も動物も 人間も同じです。そしてそのことは神の子供たちにも言えるのです。神より生まれた霊の子である人間には、父すなわち神のようになるとい う可能性が恵まれています。

……わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分た

ちが彼に似るものとなることを知っている。……(Iョハネ3:2)

イエスは次のように言って、その高い状態に登るよう私たちを鼓舞しておられます。

故に、われまたは天にまします汝らの父が完全なるごとく、汝らもまた完全とならんことを。 (Ⅱニーファイ12:48)

#### 計画

神は初めの時から、「人に不死不滅と永遠の生命とを」もたらして救うという目的を遂行して来られました。そのための計画は天上の大会 議で発表されました。その時, 霊たちのあいだに,

……神の如き者一人立ちて共に在りし者たちに言いけるは、われら降り行かん。かしてに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて これらの者の住まうべき地を造らん。而して,これによりて彼らを試し,何にてもあれ,主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼 らが為すや否やを見ん。而して、最初の位を保つ者は更に附け加えられ、……第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に附け加えら れん。 (アブラハム3:24-26)

今、人として生きていることは、私たちが最初の位を保ったことの証明です。私たちはその上、とこしえに不死不滅をつけ加えられると約 束されています。しかし、私たちはまだ、ジョセフ・スミスが扶助協会の婦人たちに言ったような救いを得る確証を受けてはいません。その 救いを得るために、私たちは最大のむずかしいチャレンジ、第二の位を保ついとうチャレンジを今受けているのです。私たちには神の命じた もう「すべてのことを……為す」ことが要求されています。それを行なうならば、私たちは「とこしえに栄光をその頭につけ加えられ」るの です。(マタイ5:48参照)私たちはイエスや天の御父が完全であられるように,完全になることができます。それが救われることの意味な

これまで長々と話してきたことが「人の救い」という私たちに課せられた責任と関係あるかどうかと尋ねられたならば、このことを私の答 えとします。

私は人とは何であるかを皆さまに思い起としていただこうとお話してきました。さらにこの上なく尊いその価値や可能性について、また人 を敷うということの意味、人がいかにして敷われるかということについて、考えていただきたいと思ってお話してきました。私たちが人の敷 いをよく手助けできるためには,以上の事柄をよく理解することが必要だと思います。他の人を導く人々には,望む目標にはどうしたら到達 できるか、それはどのような意味なのか、自分は目標をめざして歩んでいるだろうかなどという、目標に対する正しい理解がぜひとも必要で す。それらのことをいつもしっかり見つめることにより、動機が生じ、導きが得られるのです。

時代を通じて正しい道を進んでこられたのは、自分たちの場所が得られるという希望と期待に満ちたシオンのビジョンがあったからでした 1850年代に戻って、ヤング大管長は聖徒たちに言いました。

……(それは)泥穴の多い平原をぬかりながら家畜を追っていくのでもなければ、家畜や良くない人々が、大勢おしよせるというのでもな い。(民の姿から輝き出る)美と栄光に満ちたシオンというビジョンである。

…… (彼は言った) あなた方が勇気を得て、この人生の困難や悲しみや落胆に遭遇する時の備えをなし、それらに打ち勝って、すでに啓示 された主の栄光を身に受けるための準備ができる、美しく栄えあるシオンをあなた方は見た。

パウロは、贖い主御自身が同じように自らの道をまっすぐに進まれたことをヘブル人に説いています。

🔜 信仰の導き手であり,またその完成者であるイエス……彼は,自分の前におかれている喜びのゆえに,恥をもいとわないで十字架を忍び ······ (ヘブル12:2)

讃美歌は正しい生活の将来に待つ輝かしい報いをめざして頑張ろうという決意と思いを新たにしてくれます。そのため,私たちは讃美歌を 心から愛します。

(おそるな、われは汝が神 常に汝と共にあり 助け与え、強くして わが正しき力をもて 汝をささえ励まさん)

/旅を終わらず死すも すべては善し なやみを離れゆきて 正義と住まん/

、もし生きて休む 聖徒らを見れば 歌声広がらん すべては善し

繰り返しますが,人の教いに絶対欠かせないのは,人は何者であるか,人を教うことはどのようなことであるのか,人はどのようにしたら 救われるのかを,いつも心にとめることです。

……これらのことを汝らの胸にしかと銘ぜよ。汝らのこころに永遠の厳粛なることを銘記すべし。(教義と聖約43:34)

この言葉を実践しようではありませんか。そうすることは私たち自身の救いのために働くことであるばかりか,それと同様に共に働く人々 が彼ら自身敷われようと努めるよう、励ますことにもなるのです。実践する場合に、敷いの教えを全世界に宣べ伝える責任は教会にあるにも かかわらず、予言者は扶助協会にさらに厳しい責任を与えられたということをよく心にとめることが大切だと思います。彼は扶助協会の婦人 たちに言いました。

あなた方の働きの大部分は、自分の知っている人々、あなたのまわりの人々に限りなさい。知識に関しては全世界を見つめるように、し - かし実際に導きと恵みを施こす仕事は身近な知人たち,特に扶助協会の会員に対してなすようにすべきである。(教会歴史記録 第4巻 P.607 英文)

私たちは、予言者があなたの「まわりの人々」と言った中に夫が含まれていることを知っています。なぜならば予言者はこのように言いま した。

この協会では婦人たちに、夫にどう接するべきかということ、夫にやさしさと愛とをもってどのように接するかということを教えなさい。 男が問題に悩み、困難や心配事で疲れている時、不平や議論ではなく、ほほえみや、やさしさに迎えられるならば、彼の心身はやすらぎ、思 いは和げられる。絶望に沈む心には愛と親切による慰めが必要である。(教会歴史記録 第4巻 P.606―7英文)

『あなたのまわりの人々』には子供や孫やその他の家族も含まれます。それについての私たちの義務を考えてみると,私たちにはさまざま な方面でたくさんできることがあるように感じます。たとえば働いている母親と家族の夕べに関することです。

私は最近、母親が働きに出て家にいないために家へ帰りたがらない子供がいるということを、ある初等協会で聞きました。

- この場で,人の救いと,家をあけることが子供に及ぼす影響を理解された扶助協会の婦人たちは,よほどの場合でなければ,家庭を留守に しないことでしょう。「婦人の扶助協会」が人の救いに関して最も力ある働きができるのは,自分自身や他の婦人たちを力づけて,子供たち の心に、主に仕え、主の御名をほめ、両親から主の道を学ぼうとする望みを植えつけることなのです。

このことを目標とし、それが達成できるよう、イエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

### 日本中央伝道部より

伝道本部は6月25日より,神戸市灘区篠原本町2の33、電話078-88-2712~3に移転しました。



ブロックバンク長老より贈られた記念品 を手に大喜びの亀田さん御家族



バプテスマを受けられ喜びの大西兄弟御家族。 久男兄弟 (父), 八重子姉妹 (母), 紹子姉妹 (長女), 久子姉妹(二女), 富久子姉妹(三女)

### <万国博だより>

#### <モルモン館、200万人入場者突破を記録す>

去る5月26日午前10時45分モルモン館に於いて遂に200万人入場者突破の記録が樹立された。

この200万人という数は現在日本に於ける全クリスチャンの総合計の約二倍の数としてあげられ、画期的なニュースとして取りあげられるものである。この栄えある200万人目の入場者になった人は広島県尾道市に住む28歳の養鶏業を営む亀田文弘さんである。亀田さんは当日、妻スミ子さん(23歳)と8カ月になる敏明ちゃんをつれて初めて大阪の万国博を訪れ、そして会場の中、一番最初に足を踏み入れたのがこのモルモン館であった。

モルモン館長、ブロックバンク十二使徒補助の話によると当教会が過去に出展した ものの中、この日本万国博は最も成功した博覧会の一つであると言われている。

ちなみに、1964年のニューヨーク博に於ける毎日の平均入場者数は18,000人、今回の日本万国博のモルモン館入場者一日平均数は25,000人とはるかに上回っている。 亀田さんはブロックバンク長老より200万人目の入場者として特別製モルモン経及びモロナイ天使像(彫刻)を記念品として贈られた。

#### <万博リフェローカードにより多数の家族が改宗さる>

万博リフェローカード効果は目覚しく、現在家族ぐるみの改宗者が増えて来た。その一例として6月7日阿倍野支部では大西さん家族5人がバプテスマを受けられた。 これは岡町支部の鈴木兄弟がパビリオン内で発見したリフェローカードのコメントが 印象的だったのですぐに阿倍野支部に持参、宣教師に手渡したのがきっかけであった が大西兄弟御家族は求道者となられてから、主のみ言葉を聞くのに特に熱心で、家庭集



会中たどたどしい宣教師のレッスンを自分の家に帰ってから再び聞くために、テープレコーダーを毎回持参された。 このように立派な家族の改宗者がどんどん増えつつある。

去る6月6日(土)阿倍野支部にて伝道部日曜学校会長神成弘昭兄弟と地方部プライマリー会長井上裕子姉妹がめでたく御結婚された。なお二人とも阿倍野支部所属である。 写真左は喜びの神成兄弟姉妹



<M. I. A. コンフアレンスについてのお知らせ>

来る8月13日(木),14日(金),15日(土),16日(日)の四日間に亘って日本中央伝道部、日本西部伝道部共催で、M. I. A. コンファレンスが開かれる。なお教会本部よりジェイコブセン姉妹参加の予定。

場 所:神戸カナディアン・アカデミー

期 間:昭和45年8月13日~16日

参加資格:MIAに参加する12歳以上の男女誰でも。

参加費用:一人当り6,000円(滞在中の食費宿泊費を含む)



プログラム:

8月13日(木) チェックイン, 開会式, オリエンテーション, 親睦会

8月14日(金) 勉強会, 演説祭, 音楽祭, ロードショー

8月15日(土) 勉強会,スポーツとハイキング,フォークダンスの夕べ,フアイヤストーム

8月16日(日) 断食証詞会,清掃

### 日本西部伝道部より











### 西部伝道部の五月

庭のつつじの開花とともに、日本西部伝道部もようやく、きれ いな花を咲かせています。

新しい支部が開かれ、新しい10人の宣教師がやってきて、多くの新しい会員がこの教会にまねかれています。

さて、5月15、16、17日の三日間、十二使徒補助のブロックバンク長老御夫妻を招いて、最初の伝道部大会が開かれました。力強い渡辺伝道部長の話をききながら、〝王国の建設者〟としての新しいいぶきにひとみをかがやかせている会員や宣教師達の顔、それは〝愛と奉仕の精神〟という大会テーマのもとに一つとなって開かれたのでした。

そこには、主のみたまがみちあふれ、さきほこる庭のつつじの 中で、一つの喜びの家族が、この西部の地に誕生したのでした。









今 ここに一つのドラマがある。それは、喜びと感動が織りなす美しきドラマである。かれらは「やった!」と叫ぶ。そして、たがいに握手をし、肩をいだき、その成果を称え合う。

かれらは話す,一カ月前,家庭の夕べをやっていなかった家族が,今それをやっていると。また伝える,次週の安息日,ついにかれらがやってくると。そして告げる,あの人の母がバプテスマを受けると。その報告し合う顔,顔。輝きは神権の光,喜びは祝福の証詞,人の心の清らかさが,主の導きにより引出され,かれらは愛した,かれらは燃えた,かれらは訪れた。神権を身に受けた男たちは自らの手でドラマをつくったのである。

### \* \* \* \* \*

東京ステーキ部のホーム・ティーチングは,もう一つの柱,伝道活動と共に急速に進展しています。上の写真は東京第5ワード部のホーム・ティーチャーたちです。

かれらは確かにドラマをつくりました。5月におけるホーム・ティーチングの活動は、上の**20名**の神権者

の手により85世帯の訪問を達成したのです! すばらしい成果を見たのです。神様の助けによればどんな事でもできるのだという確信をわたくしたちに身をもって証明してくれたのです。もちろんホームティーチャーの数の多い所では100世帯を越えるワード部もありましたが,10組のホームティーチャーたちのこの成果を称えたいと思います。

そしてもう一つの成果は、ステーキ部宣教師たちによるバプテスマ後のABレッスンです。バプテスマを受けたわたしたちの兄弟姉妹たちは、続々と召されたステーキ部宣教師の手によって、レッスンを受け、その後をホーム・ティーチャーが引き受ける方法は今着々と実行に移されています。この号がみなさんの目にふれている頃には、すでにどのワード部も強い証詞を持った、ステーキ部宣教師や、ホームティーチャーが沢山でてくるでしよう。

多分,今読んでいるあなたもその一人かも知れませんね。(きっとそうでしよう。)あるいは,ホーム・ティーチャーと仲よくなって一生懸命系図を調べている新しい会員の方かも知れませんね。

### 日本東伝道部東北地方部だより

★5月30日堀内伝道部長、ハーディング建築総監督を迎えて東北の地に最初の主の宮が建てられるべく鍬入れ式がとりおこなわれた。



阿部支部長挨拶



左より松本、堀内部長、ヘイワード、角山、阿部各兄弟 (左後方は完成した宣教師宅)



堀内部長、自己の弱さを素直に認め、神 様の導きを求めるよう聖徒を励す。

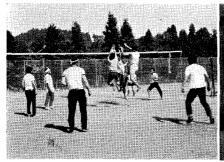
★6月13,14日心配された梅雨空もからりと晴れ、東北各地から、熱心な兄弟姉妹が集い、テーマ神権のもとに楽しく、そして有意義な大会が開かれた。



▲全伝道所の会員によるコーラス



▲東北の聖徒達



80名参加リーグ戦みごとなジャンプー番



建築支部?の会員



仙台支部出身,早坂長 老めでたく帰還の挨拶

#### ★地方部新任役員

第2副地方部長 阿 部 夫 本 長 地方部書記 Ш 大 沼 日曜学校会長 愛 紙 谷 扶助協会第2副 地方部書記 小 林 浩 志









### 日本伝道部長メッセージ



日本伝道部長

ウオルタ*ー* R. ビルス

**先** 月私たちは愛する斎藤姉妹の死をいたみました。斎藤 姉妹は天父なる神様の選ばれた娘のお一人でした。

幾人かの方々は斎藤姉妹の死に、多くの疑問をもたれ、また多くの方々は彼女の死の意味を理解なさっていないかもしれません。そこで、このような出来事に対する私の気持を述べてみたいと思います。

私たちの死ぬ理由は多くあります。ある人々は幼い時に天 父なる神様のもとへ呼びもどされます。それは、その時が彼 らの約束の時だからです。

死は人生における経験の一部です。だれでも死なねばなりません。死は人生の非常に大切な部分です。私たちはこの来たるべき変化のためまったく準備ができているわけではありません。死が何時くるかを知らずに、私たちは一生けん命生活しているのです。

私たちはなぜそんなに死を恐れるのですか? 私たちは病人のために祈り、灌油の儀式を行ないます。私は斎藤姉妹に灌油の儀式を行ないました。私たちは主に癒して下さるように、またいたみを感じて下さるように、そして生命を救って下さるように、死を延期して下さるように願いました。そして、これがなされるべき方法です。しかし、永遠とはそんなに恐ろしいものでしょうか? またこわいものでしょうか?

予言者ジョセフ・スミスは言っています。

主は幼児の時に多くの者を取り去られます。彼らはこの世の悪の悲しみや人のうらやみをのがれたのかも知れないのです。彼らはあまりにも純粋で、あまりにもかわいいためにこの地上に住むことができませんでした。それ故に、もしこの考えが正しければ、悲しむかわりに彼らが悪から救われたことを喜ばねばなりません。年老いてから死ぬか、若い時に死ぬかの違いがあるだけなのです。ある人は永遠の光と光栄の中で天において他の人よりも長く生きるのです。そして、少しはやく、この悲しむべき世から自由になるのです。

「誠に、この後主にありて死ぬる者は幸福なるかな。……彼ら死にし者よりよみがえり、その後死ぬることなく……而して主の来る時生き永らえ、信仰を保つ者は幸福なるかな。さりながら、その人齢充つれば死ぬるべく命ぜられる。」(教義と聖約63:49-50)

明らかに偉大な信仰を持っている人でも,そのすべてが癒され,助かるわけではありません。主は再び言っておられます。「また,教会の長老を二人またはそれ以上呼びてその人の

為に医しを祈り、わが名によりて按手を為すべし。而して、もしその人死ぬる時はすなわちわれにありて死し、その人生くる時はすなわちわれにありて生くるなり。汝相愛して共にこの世に生きよ。されば死にたる者を失いたるために涙を流しことに栄光ある復活の望みを有たざる者のためにいよいよ歎き悲しめ。およそ、われにありて死ぬる者は死を味わうことなし。そは死は彼らにとりて甘ければなり。また、われにあらずして死ぬる者は禍なるかな。そは、死は彼らにとりて苦ければなり。重ねて言う。およそわれにありて医さるべき信仰ありて、死の命を受けざる者は医さるべし。」(教義と聖約42:44-48)

もし、彼が死の命を受けていないならば、それはチャレンジなのです。

私たちは主が愛する者を取り去られる時を判断したり、あるいは疑問に思うべきではないのです。私は宿命論者ではありませんけれどすべての人に死ぬべき時があると思います。 私は多くの人々が、その時が来る前に死ぬことを知っています。と言うのは彼らの不注意・病気・事故・彼ら自身を生命の危険にさらしたり、あるいは不必要なことのため、また彼らの身体の濫用等種々の不注意からなのです。

神様は私たちの生命を管理し、導き、私たちを祝福し、私たちに自由意志を与えて下さいました。私たちは私たちのための主の御計画に従って生命をまっとうするかも知れません。あるいは愚かにもそれを短かくしたり、断ったりするかも知れません。

私は、主が私たちの行く末を計画なさったと信じています。私たちは生命を短かくすることはできても私たちの生命を延ばすことはできないと思います。

いつか私たちは充分に理解するでしょう。そして,私たちが未来のある時点からふり返って見る時,その時理解するのが困難に思えた人生の多くの出来事に満足するでしょう。

私たちは生まれる前に、喜びと悲しみ、苦痛と慰め、やさしい事と困難な事、健康と病気、成功と失望を経験し、肉体を得るためこの地上に送られることを知っていました。そしてまた私たちは死ぬことも知っていました。私たちはこれら未来に起こり得る出来事のすべてを喜びの心で受け入れました。良い事と悪い事のどちらも受け入れることを切望しました。私たちは、たとえそれが一日でも一年でも、あるいは一世紀間であっても地球に来る機会を受け入れることを望みました。恐らくその時に私たちは年おいて、あるいは事故、病気で死ぬかを心配していなかったと思います。私たちは無分別な要求や不平なしに(悲劇か運命)生命を取り、喜んでやってきました。

私は斎藤姉妹がこれらのことを知っておられ、今幸福であり満足しておられることを知っています。私たちがそのように生きる時、私たちもまた斎藤姉妹がそうであったように会わなければならない死に直面する準備ができるのです。生きることも死ぬことも、もし主に仕え生きそして死ぬならばそれは美しいものとなりうるのです。

聖

# 悪に加担するならば

リチャード L. エバンズ

道徳や礼儀の水準の低下に関心が高まっている今日、我々は何をしたらよいのか という質問が出てくる。ただ芝居を見るかのようにあきらめて傍観していてよいの だろうか。それとも風潮を変えるために何かできることがあるのだろうか。喜ぶべ きは、公私にわたり責任ある人々がその阻止に立ちあがりつつあることである。だ がいまだにこの風潮をはばむことに無関心な人々がいる。いくつかのごく簡単な事 実はすでに以前から知られていた。その一つはこれである。なぜ悪がはやるかとい えば、もうかるからである。また、我々が原則としては拒否しながら、実はそれを 支援し、もうけに輪をかけているからである。このことは商品となって人々の目に とまるあらゆる形の悪にいえる。人々にとって良くないことに参加し、加担するな らば、それはもうけを奨励し、悪を広める手助けとなる。理由が何であれ、もし我 々がわいせつな本や写真を買うならば、それは悪の助成である。どのような形であ れ、もし我々が低俗で不道徳な演劇を観覧し、下品で悪らつな見せものを金を払っ て見るならば、それは我々自身を低めるのみならず、業者をもうけさせ、ふところ を肥やすことである。悪は貪欲である。悪は人々を駆りたてて金づくりに誘う。我 々は悪がもうかれば、さらに力を得、世に広まることを常に忘れてはならぬ。野放 しにすればするだけ悪は伸びるであろう。我々が加担し、助長するならば、悪は果 てしなく勢いを得るであろう。我々はみな、低劣な風紀や悪に加担せず、買わず、 もうけさせないことで、大切な役割の一端をになうことができる。人にとって良く ないものがあるならば、それがいかにもうかり、好評を博し、流行しようとも、我 々は決してそれに乗じてはならない。

#### 聖徒の道

1970年 7月20日発行 振替口座 東京 16226番 発行人兼編集人 ウォルターR.ビルス 発行所 東京都港区南麻布 5 - 8 - 10 末日聖徒イエス・キリスト教会 電話 (442)7459 印刷所 太陽印刷工業株式会社 定 価 100円 子 約 - 年間 1,000円 (外国4ドル50セント)

電報受信略号 「トウキョウ」マツジツ